Wetmaster®

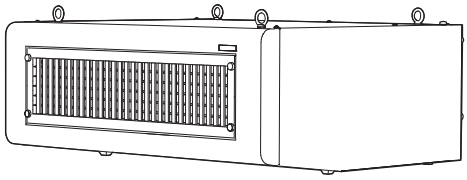
施工業者様向け

単独運転・室内直接加湿
天吊型 滴下浸透気化式加湿器

WM-VTDタイプ

施工要領書／設定要領書

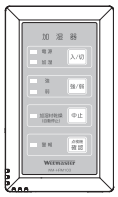
加湿器本体



VTD3201/VTD6401

リモコンスイッチ

標準リモコンスイッチ (VKRM-3)
ヒューミ付リモコン (HRM103)



- このたびはウエットマスター滴下浸透気化式加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
- この施工要領書／設定要領書には加湿器本体の取付、給排水接続、電気配線（計装）など加湿器の施工に関する説明、出荷時設定からの変更を行う場合の手順など加湿器の設定に関する説明、また安全についての注意事項などを記載しています。この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、作業の前に必ずお読みいただき、正しい施工・設定を行ってください。
- 本書の内容以外に関する説明は右記を参照し、該当するドキュメントをご確認ください。

もくじ

安全のために必ず守ること…… P.1

1 施工前の確認事項
1-1 梱包内容（付属品）の確認…… P.3
1-2 使用場所の制限について …… P.4
1-3 使用条件の確認…… P.4
1-4 給水水質について …… P.4
1-5 グループ制御パターンの確認 …… P.5
1-6 客先ご用意の部材など …… P.6

2 施工
2-1 取付…… P.7
2-2 給排水配管…… P.12
2-3 電気配線…… P.14

3 運転動作
3-1 リモコンスイッチによる運転動作…… P.21
3-2 基本的な運転動作…… P.21
3-3 リモコンスイッチ、外部指令信号入力の後押し優先機能…… P.22
3-4 運転動作と外部信号出力（運転信号、警報信号） …… P.22
3-5 静音モード運転への切替 …… P.23

4 各種設定
4-1 設定する前に …… P.24
4-2 リモコンスイッチ初期設定 **試運転前 設定必須** …… P.27
4-3 外部信号出力設定…… P.28
4-4 外部機器との連動運転設定 …… P.30
4-5 外部指令信号入力による遠方発停設定 …… P.32
4-6 ヒューミ付リモコンによる各種設定…… P.33
4-7 標準グループ制御以外の制御パターンについて …… P.41

5 仕様
5-1 VTD3201/6401 …… P.42
5-2 ヒューミ付リモコン …… P.42

試運転作業要領書	取扱説明書
施工およびリモコンスイッチ初期設定完了後、加湿器が正常に作動するかの試運転手順について記載しています。	運転動作、運転管理、一般保守要領など、加湿器の取り扱いについて記載しています。

- 本製品は給水装置の性能基準適合品（第三者認証品：（一財）電気安全環境研究所）で、水道管への直接連結が可能です。

給水装置の第三者認証について
水道法第 16 条に基づく給水装置の構造及び材質の基準に関する省令に対し、給水器具等の認証機関である一般財団法人 電気安全環境研究所（JET）で耐圧性能、水撃限界性能、逆流防止性能、負圧破壊性能などの性能基準への適合確認および生産工場の品質管理体制等の確認を行って認証を取得し、加湿器本体銘板に認証マークを表示しています。

JET
水道法基準適合

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの
⚠注意	誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの

- 図記号の意味は以下のとおりです。

必ず守る	絶対しない	触らない	濡手禁止 絶対に濡れた手で触らない	水濡禁止 絶対に水に濡らさない

⚠警告

必ず守る

取付工事は製品添付の説明書類に従って確実に行う

取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

必ず守る

取付工事は、専門業者に依頼する

取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

必ず守る

高所作業時の安全を確保する

高さが２メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

必ず守る

製品の大きさ、重さに注意する

取付には製品を支持する揚重機等を使用し、作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

必ず守る

取付は、質量に十分耐える所に確実に行う

強度が不足している場合は、落下や転倒等による事故の原因になります。

必ず守る

工事部材は付属品および指定の部材を使用する

寸法や材質等の適合しない部材を使用すると、落下・水もれ・感電・火災などの原因になります。

必ず守る

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工する

電源回路容量不足や取付不備があると感電・火災の原因になります。

必ず守る

電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する

接続や固定が不完全な場合は、発煙、火災の原因になります。

必ず守る

ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

通電したままの作業は感電の原因になります。

必ず守る

加湿器元電源には、必ず加湿器専用の漏電ブレーカを取り付ける

漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電の原因になります。

必ず守る

定格電圧、制御容量範囲内で使用する

誤った電源で使用すると感電・火災などの原因になります。

必ず守る

アース接続（D 種接地工事）を必ず行う

アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

必ず守る

活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用するか、活線作業用器具を使用する

適切な保護具、器具を使用しない場合、感電の原因になります。

必ず守る

作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する

やけど・けがの原因になります。

絶対しない

電気・電子機器等、濡れて困る物の上に加湿器を設置しない

漏電火災や事故の原因になります。

絶対しない

改造はしない

故障や水もれ・感電・火災の原因になります。

水濡禁止

加湿器本体・リモコンスイッチに水、液体をかけないこと

ショート・漏電・感電・事故・発煙・火災の原因になります。

濡手禁止

濡れた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作しない

感電・事故・発煙・火災の原因になります。

触らない

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れない

やけど・感電の原因になります。

⚠注意

必ず守る

水道法、消防法等に規制される部材の取扱については、専門業者に依頼する

正しい取り扱いがされない場合、法令違反になることがあります。

必ず守る

上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工する

正しい施工がされない場合、水もれや、水質悪化の原因になります。

必ず守る

給水の水質は、水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水を使用する（上水道の使用を推奨）

水質が不適当な場合は、室内空気の汚れの原因になります。

必ず守る

凍結の恐れがある地域では、必ず凍結防止工事を行う

配管・減圧弁などが破裂し、水もれの原因になります。

必ず守る

ドレン配管は、本書にしたがって確実に排水するように配管し、結露が生じないように断熱する

配管工事に不備があると水もれの原因になります。

必ず守る

製品の運搬は十分注意して行う

原則二人以上で行ってください。ケガや落下による破損の原因になります。

絶対しない

移動できないものの上に加湿器を設置しない

後々のメンテナンスができなくなる恐れがあります。

絶対しない

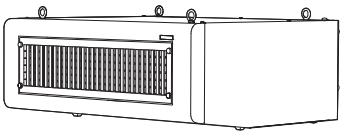
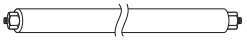
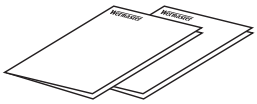
濡れて困る物の上に加湿器を設置しない

適切にメンテナンスがされていない場合、水もれの恐れがあります。

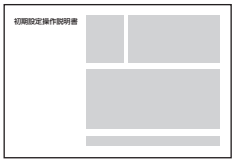
1 施工前の確認事項

1-1 梱包内容（付属品）の確認

● 標準品の梱包内容（付属品）は以下のとおりです。開封後は直ちに内容を確認してください。

梱包内容 / 部品名称	仕様など	形状	個数
A 加湿器本体梱包			
①加湿器本体 VTD3201 VTD6401 のいずれか	鋼板塗装（近似色 マンセル N9）		1 台
②給水軟銅管	0.4 m、 リングジョイント式 断熱材被覆付		1 セット
③給水ストレーナ	T型、# 100、R1/2		1 個
④排水ホース	L 型、内径φ 25、 ホースバンド 2 個付		1 本
⑤説明書類※	施工要領書／設定要領書、試運転作業要領書		各 1 冊

※取扱説明書は環境負荷軽減を目的に、製品には同梱しておりません。Web サイトよりダウンロードまたは弊社宛ご請求ください。

B リモコンスイッチ梱包			
⑥リモコンスイッチ 標準リモコンスイッチ（VKRM-3） またはヒューミ付リモコン（HRM103）	——	または 標準リモコンスイッチ　ヒューミ付リモコン	1 個
⑦初期設定操作説明書	——		1 部

1-2 使用場所の制限について

● **滴下浸透気化式加湿器は、下記のような現場では使用できないことがありますので、事前に当社宛お問い合わせください。**

＊通気、設置場所に腐食性ガスが予想される場合
＊厨房、食品工場その他、通気に塩分やオイルミストを含むおそれのある場合
＊機械工場など、通気に金属製の塵埃を含むおそれのある場合
＊病院などの清浄度を要求される特殊空調

1-3 使用条件の確認

● 下記の使用条件などを満足していることを確認してください。

定格電源	AC100V（50/60Hz 共用）
設置・保管時の本体周囲温湿度	5 ～ 40℃（凍結しないこと） 80% RH 以下
吸込空気温度	5 ～ 40℃
給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水（P.4「1-4 給水水質について」参照）
給水圧力	0.05 ～ 0.5MPa
給水温度	5 ～ 30℃

1-4 給水水質について

● **給水の水質は、必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください（上水道の使用を推奨します）。純水は使用できません。また、軟水器を使用すると軟質のスケールが析出し、飛散することがありますので、軟水を供給しないでください。**

加湿モジュールは、使用によって汚れが堆積するため、加湿能力および加湿による気化冷却効果が徐々に低下します。
以下の点にご注意ください。

＊汚れの量は、水質や運転環境の様々な要因によって変化しますので定期的に監視し、汚れの質や量に応じた洗浄方法、洗浄サイクルを定めてください。水道法水質基準に準じている場合でも、全硬度、シリカ成分量などが多ければ、それだけ汚れやスケール成分の析出量も多くなる可能性があります。参考として、（一社）日本冷凍空調工業会標準規格では「冷凍空調機器用冷却水水質基準（JRA-GL02-1994）」において、冷却水の補給水の水質についてスケールの傾向に影響を与える項目と基準は、pH（25℃）：6.8 ～ 8.0、導電率（25℃）：30mS/m 以下、酸消費量（pH4.8）：50mg$CaCO_3$/ℓ以下、全硬度：70mg$CaCO_3$/ℓ以下、カルシウム硬度：50mg$CaCO_3$/ℓ以下、イオン状シリカ濃度：30mgSiO_2/ℓ以下とされています。ただし、上記基準を満たした水でも、地下水･井戸水･地下水を利用した専用水道･工業用水を利用した水の使用では、その含有成分の影響で早期のスケール発生やスケール飛散が生じる場合がありますのでご注意ください。また、軟水器処理水および軟水器処理水と地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水との混合水は使用しないでください。軟質のスケールが析出し、飛散することがあります。

1-5 グループ制御パターンの確認

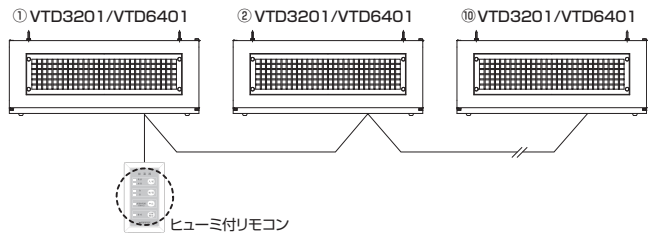
⚠注意

事前に計画された制御方法・設置場所に設置する

❗事前に計画された制御方法・設置場所に設置されない場合、正常な湿度検知ができないことがあります。

- 本書は下記に示す 2 種類のグループ制御パターンを標準とし、標準制御する場合の説明を記載しています。
- 標準グループ制御パターンに合致しないグループ制御を行う場合は追加で別途設定等が必要となりますので、下記フローチャートで計装パターンを確認してください。設定作業の詳細については、P.41「4-7 標準グループ制御以外の制御パターンについて」を参照してください。

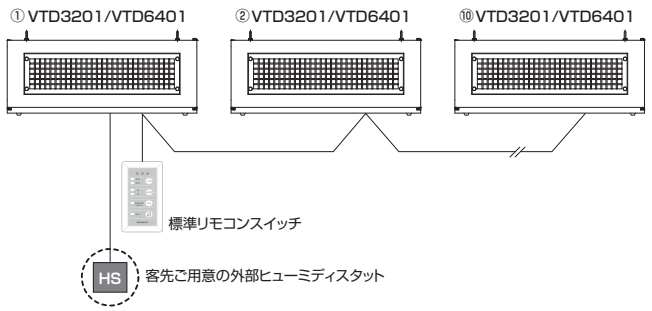
標準グループ制御 パターン①



加湿器	リモコン
▪ VTD3201/VTD6401（複数台）	▪ ヒューミ付リモコン

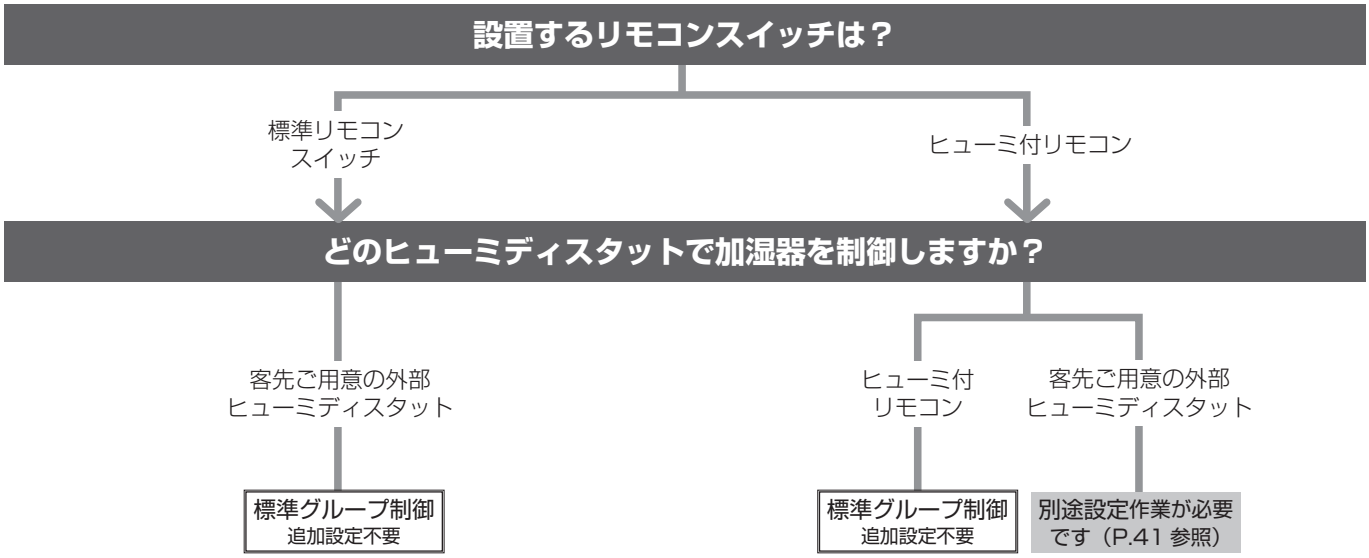
● 湿度検知
ヒューミ付リモコンに内蔵のヒューミディスタットで湿度検知を行う

標準グループ制御 パターン②



加湿器	リモコン
▪ VTD3201/VTD6401（複数台）	▪ 標準リモコンスイッチ

● 湿度検知
客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う



1-6 客先ご用意の部材など

● 付属品のほか、下記の客先ご用意の部材などを確認してください。また下記以外の部材については、現場の必要に応じて適宜ご用意ください。

施工内容	必要部材など	注意事項	
加湿器本体取付	吊ボルト用アンカー 吊ボルト ターンバックル ナット・ブラケット など	▪ 本体の運転時質量は VTD3201 が 37kg、VTD6401 が 60kg です。重さに十分に耐えられるだけの強度を確保してください。 ▪ 吸込口、吹出口の位置、および加湿器本体周囲スペース（サービススペース）を確認して施工してください。	
給水配管	配管部材	▪ 施工後にもフラッシングが行えるように、必ずフラッシング用バルブをご用意ください。 ▪ 加湿用給水配管は暖房加湿ではシーズンオフには通水がないため管内の腐食が発生しやすく、また配管残留水の加湿器への流入防止の意味からも、施工当初に限らずフラッシングが必要になります。 ▪ 本加湿器は給水器具等の認証品です（第三者認証品）。上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工し、当該自治体（水道事業管理者）などで指定された給水配管材料をご使用ください。 ▪ 給水配管の施工に配管シール剤を使用する場合、配管シール剤メーカーの取扱上の注意に準拠してお願いします。また、十分なシール剤乾燥時間を確保してください。塗布量が多かったり乾燥が不十分な状態で通水すると、シール剤が給水に混ざる形で加湿器本体内に流入することになり、加湿器内でのシール剤固化により故障の原因になります。また、配管シール剤には有機溶剤成分が含まれているため、加湿器に流入した場合は構成部品に悪影響を及ぼすことがあります。加湿器への通水の前には、縦配管のフラッシングのほか、加湿器給水配管管末のフラッシング用バルブ等から十分なフラッシングを実施し、フラッシング実施後の水が無色透明、無臭であることを確認してください。	
	給水サービス弁	▪ 保守点検作業のため、必ず加湿器 1 台に 1 個設けてください。	
	保温材	▪ 配管結露防止のため、必ず施工してください。	
排水配管	配管部材	▪ 付属の排水ホース、ホースバンドを必ず使用してください。 ▪ 排水配管は 20A とし、排水主管までは各加湿器ごとに単独に配管してください。 ▪ 加湿器からの排水配管は必ず 1/100 以上の先下がり勾配・大気開放とし、排水がスムーズに流れるよう配管してください。	
	保温材	▪ 配管結露防止のため、必ず施工してください。	
電気配線	各種配線材など	▪ リモコンスイッチの取り付けには JIS ボックス（JIS C 8340 適合品）が必要です。下記の該当する組み合わせの各ページを参照し、誤配線や未配線のないように注意して確実に施工してください。	
		VTD3201/VTD6401 と 標準リモコンスイッチの組み合わせ	P.16「結線要領図」、P.17「結線参考図」
		VTD3201/VTD6401 と ヒューミ付リモコンの組み合わせ	P.18「結線要領図」、P.19「結線参考図」

※天井内に給排水配管を設置する場合は、□450 以上の点検口をご用意ください。

2 施工

2-1 取付

2-1-1 加湿器本体の取付

⚠注意

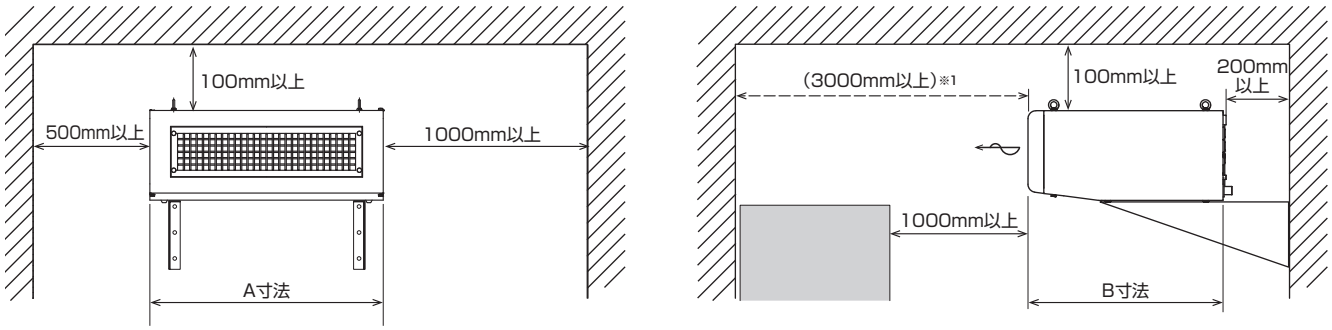
本体の重さに十分耐える所に確実に取り付ける

❗ 強度不足や取付工事に不備があると、落下などによる事故の原因になります。

加湿器本体は水準器を使用し、水平に取り付けてください。正しく施工されないとフロートスイッチの誤動作をまねき、水漏れの原因になります。やむを得ず水平に取り付けられない場合は、排水(点検扉)側に 1˚以内、風下側に 1˚以内の傾きに収めてください。また、本体の天地および気流方向にご注意ください。

- 取り付けにあたっては、保守点検が容易にできる**サービススペースを確保してください**(図 -1)。サービススペースは加湿モジュール等を引き出すために必要なスペースです。
- 施工時、水平を取る際は加湿器の上部に水準器を当ててください。
- 天井や壁面のアンカーボルトは重さに十分耐えられるものをご使用ください。
- 本体上面および底面の取付用ボルト孔ピッチは、図 -2 を参照してください。
- 取付用ボルト孔には、本体上面は吊りボルト、底面にはボルトキャップが取り付けられていますので、必要に応じて外してください。
- 取付用ボルト孔に使用するボルトの本体内にねじ込む長さは 12mm までにしてください。長いボルトを使用すると、本体内部の保温材などの破損の原因になります。
- P.8 図 -3 に取付例を示します、参考にしてください。

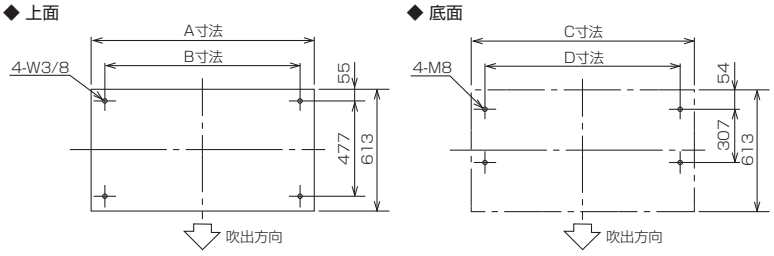
図 -1 本体周囲スペース



※ 1：加湿器からの吹出空気が窓や壁に直接当たると、周囲温湿度によっては結露する恐れがあります。前方構造物までの距離は 3000mm 以上とすることを推奨します。また、アングルなどを使用して、吊りボルトで取り付けることはできませんのでご注意ください。加湿モジュールが取り出せなくなります。

寸法	VTD3201	VTD6401
A 寸法	734	1334
B 寸法	613	613

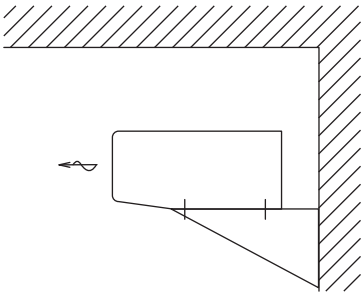
図 -2 取付用ボルト孔ピッチ



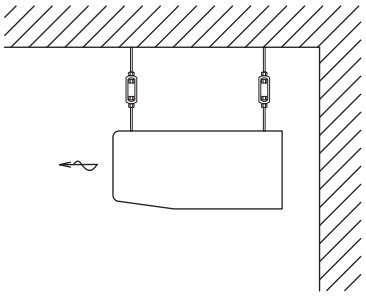
寸法	VTD3201	VTD6401
A 寸法	734	1334
B 寸法	584	1184
C 寸法	734	1334
D 寸法	584	1184

図 -3 取付例

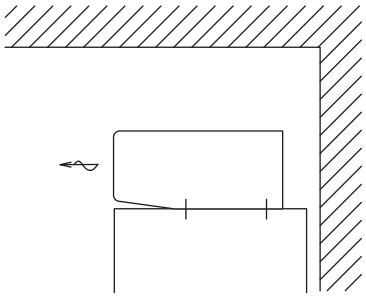
◆ 壁面用取付ブラケット
(オプション用意)



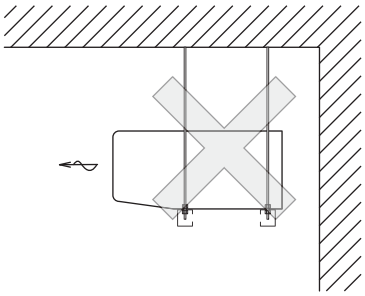
◆ 吊ボルト/ターンバックル

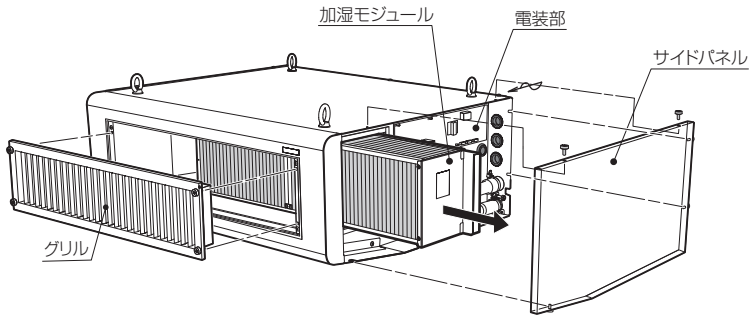


◆ 台の上に固定



※いずれも落下、転倒などないようにご配慮ください。



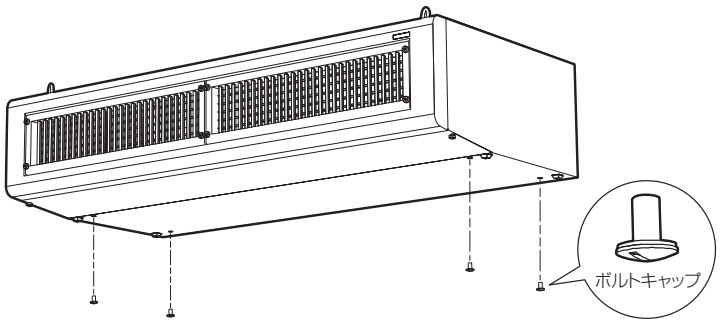


●本加湿器は、吹出口を正面に見て**右側のサイドパネルを外して、保守点検や運転モードの切替を行います。**
上図左のような**吊ボルト/アングルでの取付をした場合、保守点検ができなくなります**のでご注意ください。

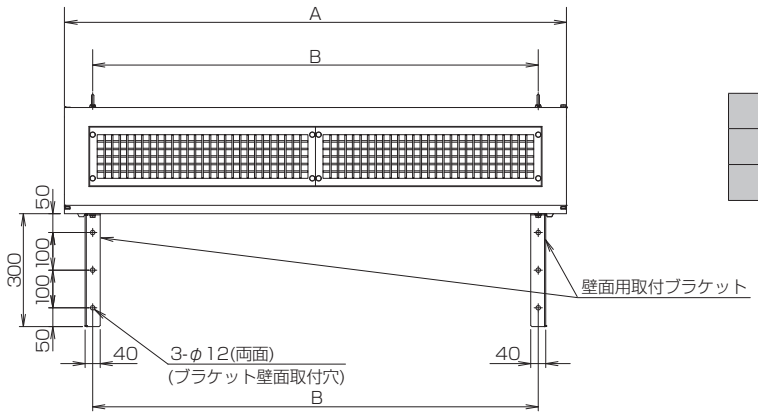
2-1-2 壁面用取付ブラケット（オプション品）を使用する場合

- 当壁面用取付ブラケットはオプション品です。
- 壁面用取付ブラケットの梱包内容は以下のとおりです。開封後は直ちに内容を確認してください。
  - ブラケット本体（左右 1 個ずつ）
  - 六角ボルト（M8 × 15、4 個）
  - 平ワッシャ（M8、4 個）

①加湿器本体底面についているボルトキャップを外してください。

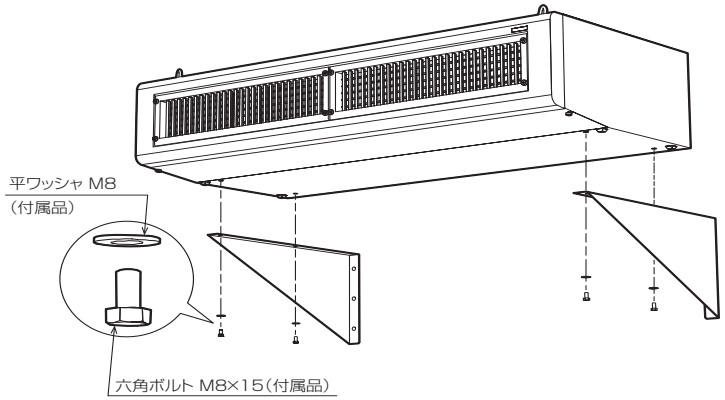


②壁面用取付ブラケットを壁等に固定してください。



寸法	VTD3201	VTD6401
A 寸法	734	1334
B 寸法	584	1184

③加湿器本体とブラケットを固定してください。加湿器本体とブラケットの取付は付属の六角ボルトを必ず使用してください。15mm 以上のボルトを使用すると内部を破損する恐れがあります。



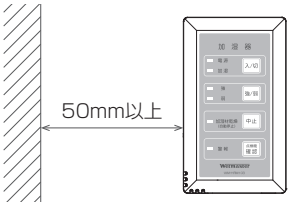
2-1-3 リモコンスイッチの取付と配線要領

- **リモコンスイッチは必ずご使用ください。**リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
- リモコンスイッチ取付にあたって、JIS ボックスをご用意ください(JIS C 8340 適合品、ピッチ 83.5mm、客先ご用意)。
- リモコンスイッチの取付と配線終了後は、リモコンスイッチ初期設定を行ってください(P.27「4-2 リモコンスイッチ初期設定」参照)。

①リモコンスイッチ下面の凹部に、マイナスドライバを差し込んで軽くねじり(2 箇所)、上ケースを外してください(図 -4)。

②壁面の JIS ボックスに下ケースを取り付けます。

- 取付用のネジは JIS ボックスに合わせて現地でご手配ください。
- ヒューミ付リモコンの場合、リモコンスイッチのサイドスイッチ操作と湿度感知に影響するため、**壁面へ取り付ける際は左側面から 50mm 以上の空間を確保してください。**

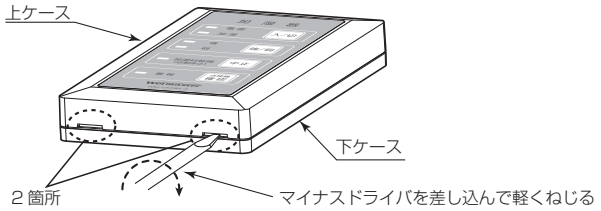


③配線引込穴から配線を引き込み、リモコンスイッチ基板の端子に接続します(図 -5)。

- 線材は 0.5 ～ 0.75mm^2 のシース付きビニルコードまたはケーブルをご使用ください(客先ご用意)。
- **配線は M3 ねじ用裸丸端子を使用**し、リモコンスイッチ基板の端子 C1、C2 に配線し、C1、C2 が接触しないように取回してください。また、端子台が破損しますので、**インパクトドライバで締め付けないでください。**
- リモコンスイッチ基板の端子 C1、C2 と加湿器本体の端子 C1、C2 を接続してください(C1 と C2 の極性はありません)。
- 露出配線を行う場合は、P.11 図 -6 をご参照ください。

④配線を挟まないように注意してリモコンスイッチケースを元通り閉じてください。

図 -4 リモコンスイッチケースの開け方



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

注意

ケースの損傷に注意

リモコンスイッチケースを開ける際は、マイナスドライバの先にウエスを挟むなどの養生を行い、ケースの破損に注意してください。

基板の損傷に注意

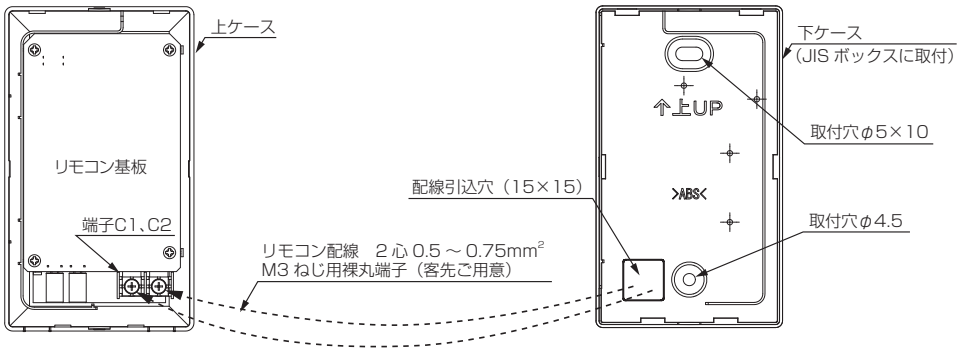
リモコンスイッチ基板は上ケースに付いています。ドライバ等で基板を傷つけないように注意してください。

基板の短絡に注意

基板にゴミあるいは水分などが付着しないように注意してください。

図 -5 リモコンスイッチの取付と配線要領

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合

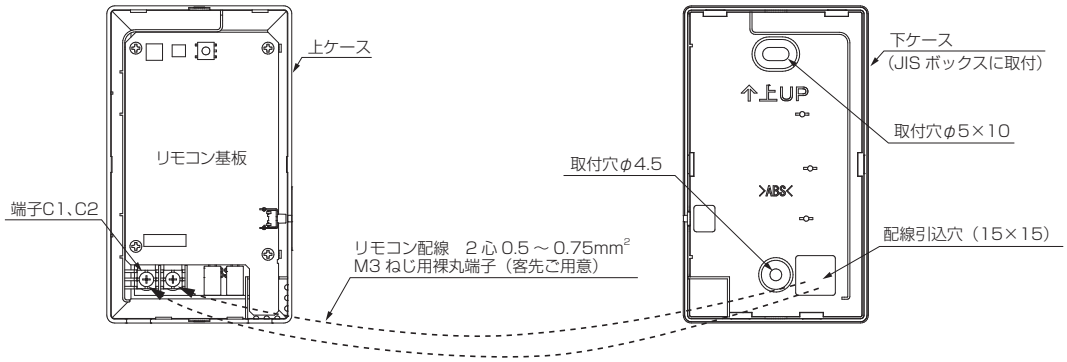


図 -6 露出配線を行う場合

● 配線方向は P.10 の後方引き込みの他に、下記の方法で下方引き込みまたは上方引き込みとすることが出来ます。

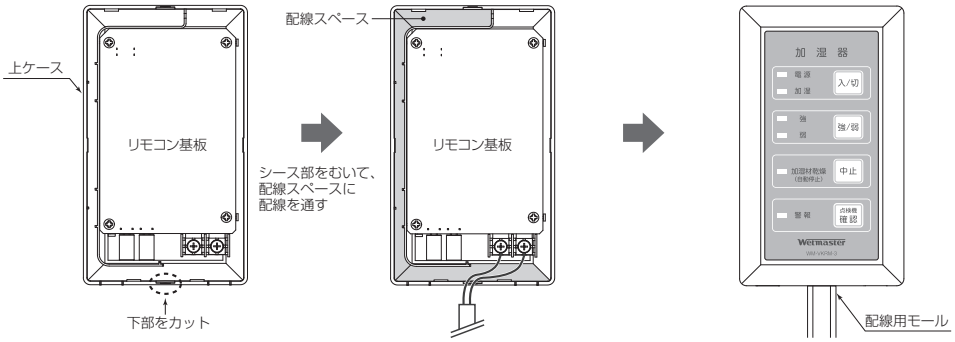
①配線方向にあわせてニッパなどで上ケースの薄肉部を切り取り、ヤスリなどでバリをとってください。その際、ケースを割らないように注意して作業してください。

②配線の引き込み方向にあわせてリモコンスイッチケース内に入るケーブルのシース部をむき、下図のように配線を回してください。

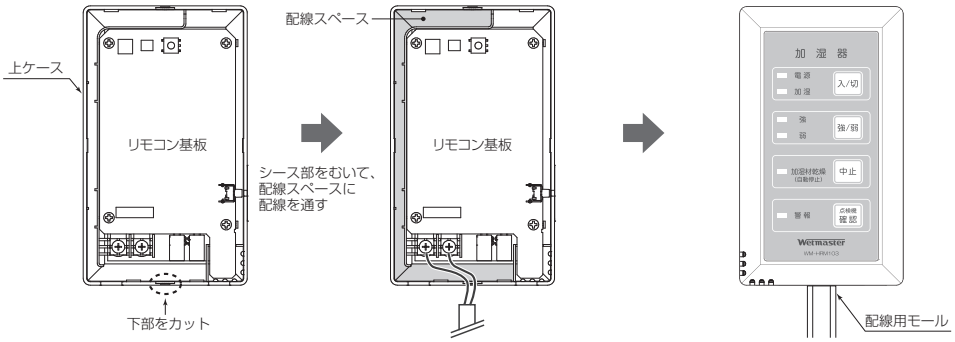
③配線を挟まないように注意して、壁面に取り付けた下ケースに上ケースをはめ合せてください。また、露出配線は上ケースが外せるように注意して配線用モール(客先ご用意)などで処理してください。

【下方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合

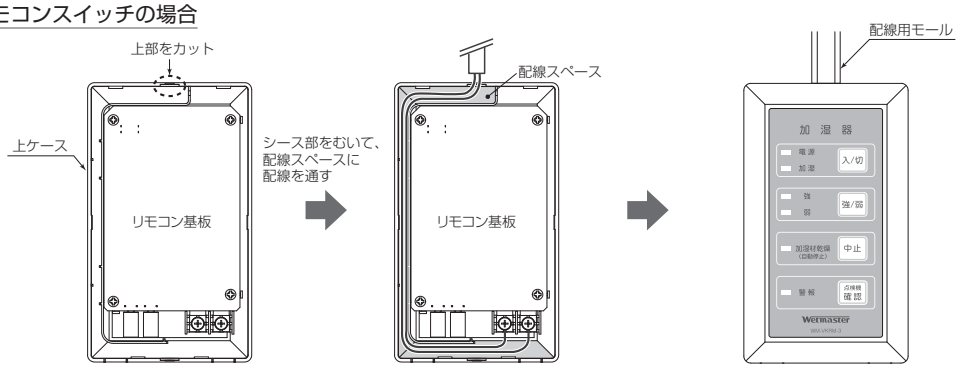


ヒューミ付リモコンの場合

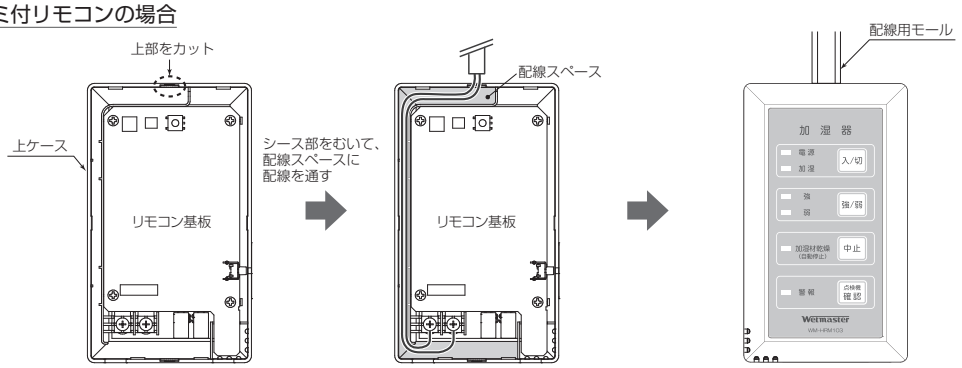


【上方引き込みの場合】

標準リモコンスイッチの場合



ヒューミ付リモコンの場合



2-2 給排水配管

⚠注意

配管は必ず保温する

❗保温しないと結露による水もれの原因になります。

上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工する

❗本加湿器は給水器具等の認証品です（第三者認証品）。上水道直結の配管工事は、当該自治体（水道事業管理者）の認定水道工事業者が施工し、当該自治体（水道事業管理者）などで指定された給水配管材料をご使用ください。

2-2-1 給水配管

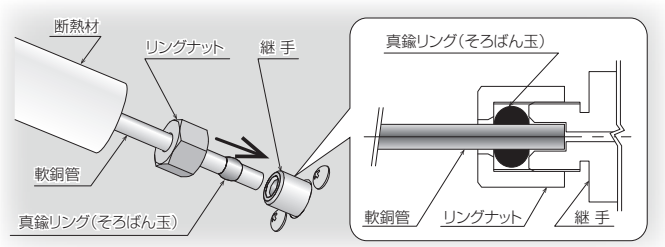
- 加湿器に使用する供給水は、**必ず水道法に定められた水道法水質基準に適合した飲料水をご使用ください（上水道の使用を推奨します）。**飲料水の水質基準を満足した水でも、地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水を利用した水の使用では、その含有成分の影響で早期のスケール発生やスケール飛散が生じる場合がありますのでご注意ください。また、**軟水器処理水および軟水器処理水と地下水・井戸水・地下水を利用した専用水道・工業用水との混合水は使用しないでください。**軟質のスケールが析出し、飛散することがあります。
- **給水サービス弁**は、加湿器本体になるべく近い位置に、必ず加湿器 1 台につき 1 個ご用意ください。
- 配管に結露が生じないよう、**必ず保温してください。**
- 配管の管末にはフラッシング用バルブやプラグを取り付けるなどして、**施工後にもフラッシングが行えるように現場の都合に応じて配管してください。**
- 給水配管と加湿器本体を接続する前には通水して**必ずフラッシング（配管のブロー）を行い**、配管内の汚れや異物が加湿器に流入しないようにしてください。
- 給水軟銅管の接続はリングジョイント式です。図 -7 を参照して、**水もれのないように確実に接続してください。**客先配管との接続は、付属の給水ストレーナ（T 型 R1/2）を使用します。
- 配管要領および加湿器本体の配管接続位置は図 -8 を参照してください。
- 給水配管の施工に配管シール剤を使用する場合、配管シール剤メーカーの取扱上の注意に準拠してお願いします。また、十分なシール剤乾燥時間を確保してください。塗布量が多かったり乾燥が不十分な状態で通水すると、シール剤が給水に混ざる形で加湿器本体内に流入することになり、加湿器内でのシール剤固化により故障の原因になります。また、**配管シール剤には有機溶剤成分が含まれているため、加湿器に流入した場合は構成部品に悪影響を及ぼすことがあります。**加湿器への通水の前には、縦配管のフラッシングのほか、加湿器給水配管管末のフラッシング用バルブ等から十分なフラッシングを実施し、**フラッシング実施後の水が無色透明、無臭であることを確認してください。**
- フラッシング後は給水サービス弁が「閉」となっていることを確認してください。

⚠注意

軟銅管は継手部付近からの急な曲げ加工は行わない

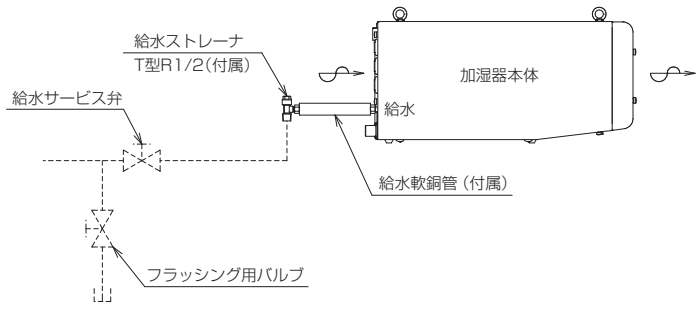
❗水もれの原因になります。

図 -7 給水軟銅管の接続



- 軟銅管は継手の奥までまっすぐにしっかりと差し込み、必ず 2 本のレンチを使ってナットを締めてください（付属の給水接続継手側）。
- リングナットの**締付トルクは 10N·m 程度**としてください。

図 -8 給水配管要領



- 加湿器への給水配管には、給水サービス弁およびフラッシング用バルブをメンテナンス上、必ず設けてください。図は一例です。現場の都合に応じてフラッシングが行えるように配管してください。フラッシングバルブ後に配管を接続する場合、クロスコネクションとならないように配管してください。
- 加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源を OFF とする場合には、給水サービス弁を閉じるなど、万一の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。

2-2-2 排水配管

- 排水ホースの内径は φ 25 です。排水口と客先ご用意の排水配管との間を付属品の排水ホースで接続します。**ホースバンドの締付トルクは 1.5N·m** 程度とし、排水口の真ん中にかかるようにしてください(図 -10)。
- 排水口に排水ホースを接続する際は、**排水ホースに有機溶剤（接着剤など）は使用しないでください。**排水口が劣化し、不具合に至るおそれがあります。
- 排水配管は 20A 以上とし、排水主管までは各加湿器ごとに単独に配管してください。
- 排水配管は付属の排水ホース、ホースバンドを必ず使用してください。
- 排水口および排水ホースに**排水配管の荷重がかからないように施工**してください。
- 排水配管は**結露を防止するため、保温処理を施してください。**
- **排水配管途中に山越えやトラップを作らないように施工**してください（図 -9)。排水不良の原因となります。また、配管途中にエア抜きは設けないでください。
- 排水口からの**排水配管は必ず 1/100 以上の先下がり勾配・大気開放**とし、排水がスムーズに流れるよう配管してください。
- 排水配管は排水口、排水ホースに荷重がかからないようにしてください（図 -10)。また、排水配管がたるまないように 1,000 ～ 1,500mm 間隔で支持し、各加湿器ごとに単独に配管してください。
- 配管要領および加湿器本体の配管接続位置は図 -10 を参照してください。

図 -9 排水配管の禁止施工例

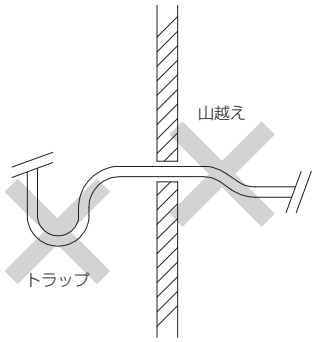
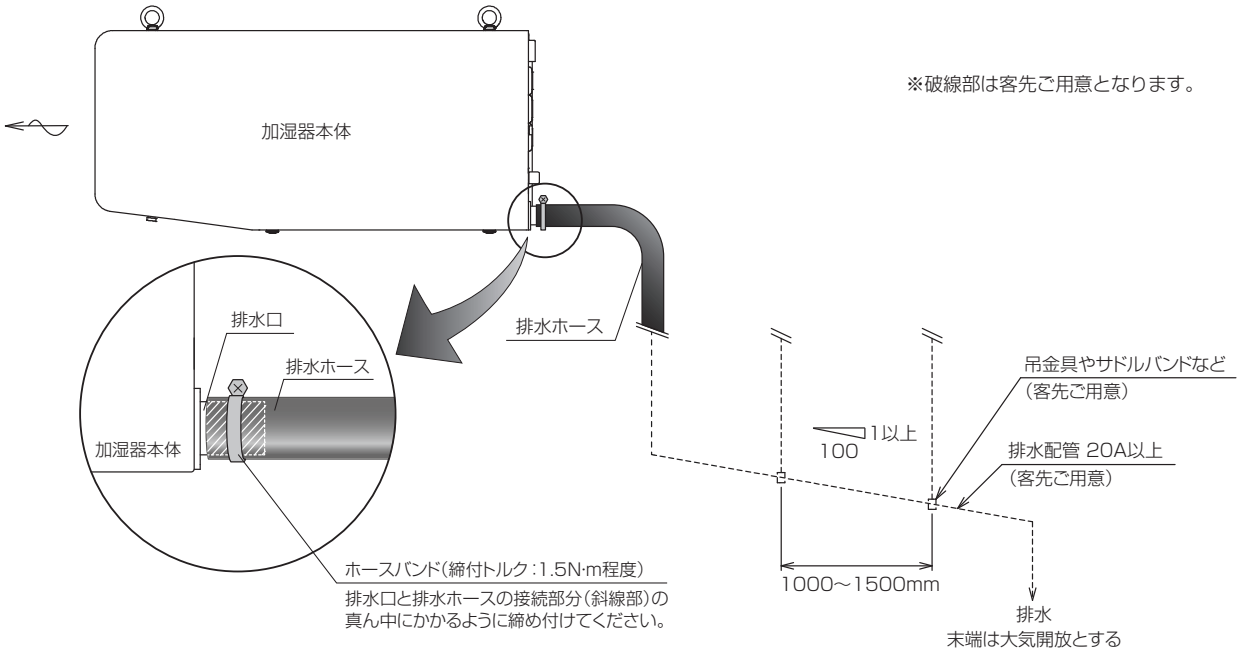


図 -10 排水配管



※ドレン排水用ポンプ（オプション）を設置する場合は、専用の施工要領書 / 取扱説明書をご参照ください

2-3 電気配線

⚠警告

電気工事は、電気工事士が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工し、必ず専用回路とし、定格の電圧・ブレーカーを使用する

❗電気回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。

各配線の接続部にケーブルの外力が加わらないように固定する

❗施工不備があると、感電、火災の原因になります。

端子台への各配線接続には絶縁丸型端子（M4 ねじおよび M3 ねじ相当）を使用し、1P あたりの接続は 2 端子までとする

❗3 端子以上接続すると接触不良となり、発煙、火災の原因になります。

端子台に接続する絶縁丸型端子は、電線径に適合するものを使用する

❗適合しないものを使用すると線の抜けや接触不良を起こし、感電、火災の原因になります。

アース接続（D種接地工事）を行う

❗アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

⚠注意

端子台ねじは、締付トルク 0.5N・m で締め付ける

❗インパクトドライバ等で締め付けた場合、端子台破損の原因になります。

規定の電源電圧を供給する

❗供給電源は AC100V です。事前に供給電源の種類の確認と該当する端子が AC100V であることを確認し、適切な線材を使用してください。

2-3-1 共通事項

- 電気配線は客先ご用意となります。加湿器電源として専用回路を使用してください。
- 現場の指示等をよくご確認のうえ、確実な電気工事をお願いします。配線にあたっては、表 -1 に該当する「結線要領図」を参照してください。使用する加湿器とリモコンスイッチの組み合わせにより配線が異なりますのでご注意ください。
- 加湿器元電源には必ず**漏電ブレーカ**を設けてください。漏電事故防止および保守点検作業時の安全のため必要です。
- **リモコンスイッチは必ずご使用ください。**リモコンスイッチを使用しないと運転できません。リモコンスイッチ 1 個で加湿器本体 10 台まで同時制御を行うことができます。
- 電源ラインを加湿器端子台で渡らせる場合は、端子台定格容量を超えないよう 10 台以下としてください。
- リモコンスイッチの配線は、P.10「2-1-3 リモコンスイッチの取付と配線要領」も参照してください。
- リモコンスイッチ配線（リモコンスイッチ⇔本体 1）および本体渡り線（本体 1 ⇔本体 2…）の**信号配線の総配線長は 100m 以内**としてください。
- リモコンスイッチと加湿器本体を結線した後、**加湿器の運転前にはリモコンスイッチ初期設定が必要です**（P.27「4-2 リモコンスイッチ初期設定」参照）。リモコンスイッチ初期設定を行わないと運転することが出来ません。
- 運転信号および警報信号を使用する場合は、P.28「4-3 外部信号出力設定」を参照し設定を行ってください。
- 外部指令信号入力で発停を行う場合には P.32「4-5 外部指令信号入力による遠方発停設定」を参照し設定を行ってください。グループを一括制御する場合は表 -1 に該当する「結線参考図」を参照し、結線してください。
- 強電の電源ラインと弱電の信号ライン（C1、C2、L1、L2、4、5、6）は分けて配線してください。同一管路内に納めて配線すると、誤動作の原因になります。
- 必ずアース接続（D種接地工事）を行ってください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。

※ドレン排水用ポンプ（オプション）を設置する場合は、専用の施工要領書 / 取扱説明書をご参照ください。

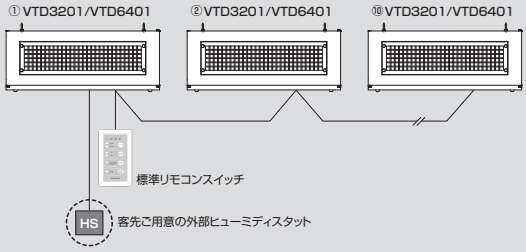
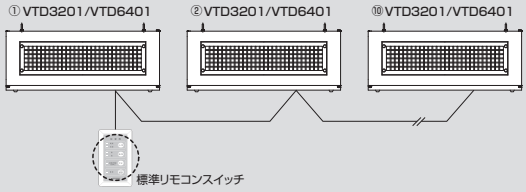
表 -1 加湿器本体とリモコンスイッチの各組み合わせにおける各種図面の参照ページ

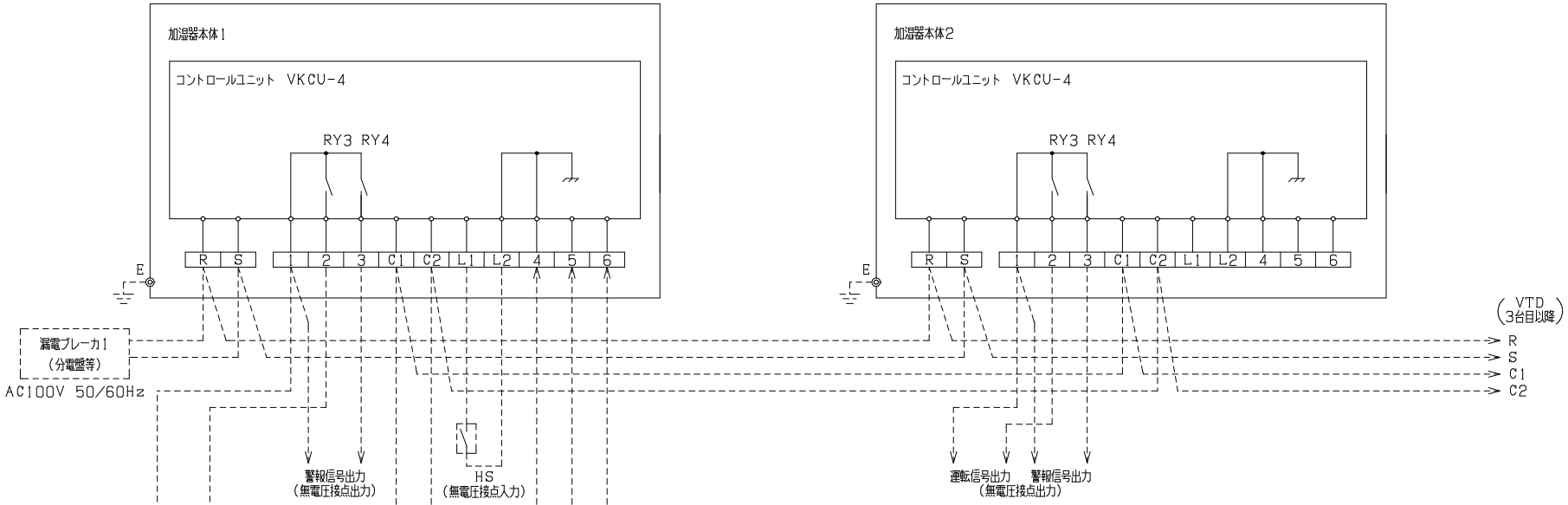
加湿器本体	VTD3201/VTD6401	
リモコンスイッチ	標準リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコン
結線要領図	P.16	P.18
結線参考図	P.17	P.19

2-3-2 VTD3201/VTD6401 と標準リモコンスイッチの組み合わせで使用する場合

● 客先ご用意の外部ヒューミディスタットについては表 -2 を参照し、配線を行ってください。

表 -2 外部ヒューミディスタット有無における注意事項

外部ヒューミディスタットの有無	注意事項
外部ヒューミディスタットを 使用する場合 	▪ 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合、ヒューミディスタットを複数個使用して各加湿器を個別に制御することはできません。**必ずヒューミディスタットとリモコンスイッチは 1 対 1** となるようにしてください。 ▪ ヒューミディスタットは湿度低下で接点が ON となる形式で、接点容量 100V・2A 以上のものをご用意ください。ヒューミディスタット 1 個で加湿器 10 台まで同時制御を行います。 ▪ ヒューミディスタットは、P.16「WM-VTD3201/6401 結線要領図」を参照し「加湿器本体 1」の端子 L1、L2（無電圧接点）に接続してください。 ▪ 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも端子 L1、L2 への接続は「加湿器本体 1」のみで全数の運転制御ができます。
外部ヒューミディスタットを 使用しない場合 	▪ ヒューミディスタットを使用しない場合、P.16「VTD3201/6401 結線要領図」を参照し「加湿器本体 1」の端子 L1、L2 を短絡してください。L1、L2 が短絡されない場合、加湿器は運転しません。 ▪ 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも端子 L1、L2 の短絡は「加湿器本体 1」のみで全数の運転制御ができます。



運転信号出力(無電圧接点出力)
基板VKCU-4 ディップスイッチ DS3 2番ピン
■ OFF
電源表示灯と連動
※スイッチ「入」状態
(出荷時設定)
■ ON
加湿表示灯と連動
※スイッチ「入」かつ
HS「ON」状態

C1 C2
リモコンスイッチ
WM-VKRM-3

外部指令信号入力(無電圧接点入力)

(1)常時入力信号(出荷時設定)の場合
基板VKCU-4
ディップスイッチ DS3 1番ピン ■ OFF
4 5 6

(2)瞬時入力信号の場合
基板VKCU-4
ディップスイッチ DS3 1番ピン ■ ON
4 5 6
COM
ON OFF

※ 接点定格(RY3, RY4)

抵抗負荷	AC125V	3A
	DC30V	3A
誘導負荷	AC125V	1A
	DC30V	1A

各配線径

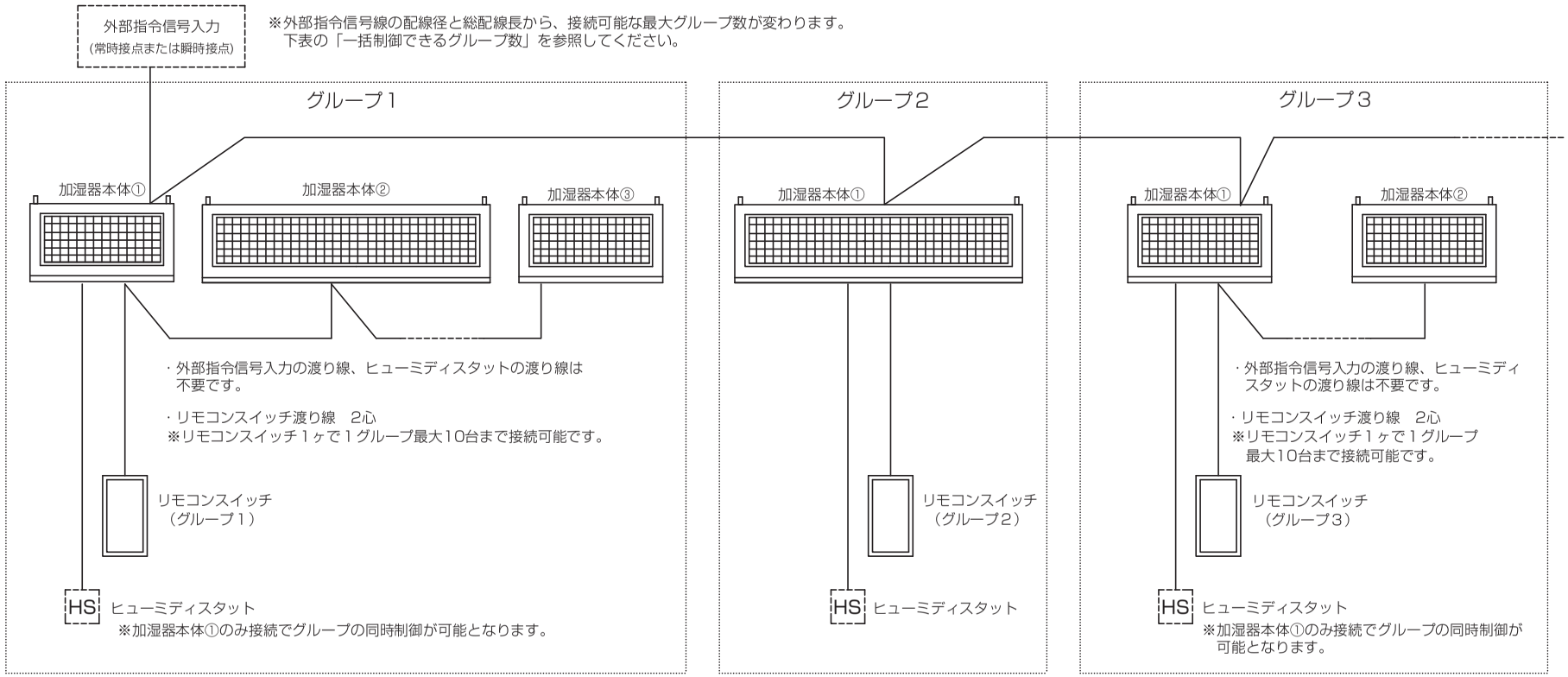
電源(R, S)	1.25mm²	M4ねじ用
リモコンスイッチ, HS(C1, C2, L1, L2)	0.5~0.75mm²	M3ねじ用
外部指令信号入力(4, 5, 6)	0.75~1.25mm²	M3ねじ用

※ 通電電圧/電流
DC12V/DC10mA

※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ 加湿器本体端子台への配線は絶縁丸型端子(M4ねじ用およびM3ねじ用)を使用してください。
※ ヒューミディスタット(HS)および外部指令信号入力の渡り線は不要です。
※ リモコンスイッチで、本体10台まで同時制御可能です。
※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
※ ヒューミディスタットを使用しない場合には、加湿器本体1の端子L1, L2を短絡してください。
※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、加湿器本体1のコントロールユニットの
ディップスイッチ(DS3 1番ピン)の設定を変更してください。
※ 運転信号出力を加湿表示灯と連動させる場合は、各加湿器本体のコントロールユニットの
ディップスイッチ(DS3 2番ピン)を各加湿器毎に設定してください。
※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec(0.1秒)以上の接点を入力してください。
※ アース(E)はD種接地工事にて施工してください。

作成日 2023/08/14	図面名称 ウエットマスター VTD WM-VTD3201・6401 結線要領図		
更新日 2023/08/14	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図番 ATDQSJ00004		訂正回数 0	葉別 1/1

●WM-VTD3201・6401　複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例



必ず1グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。

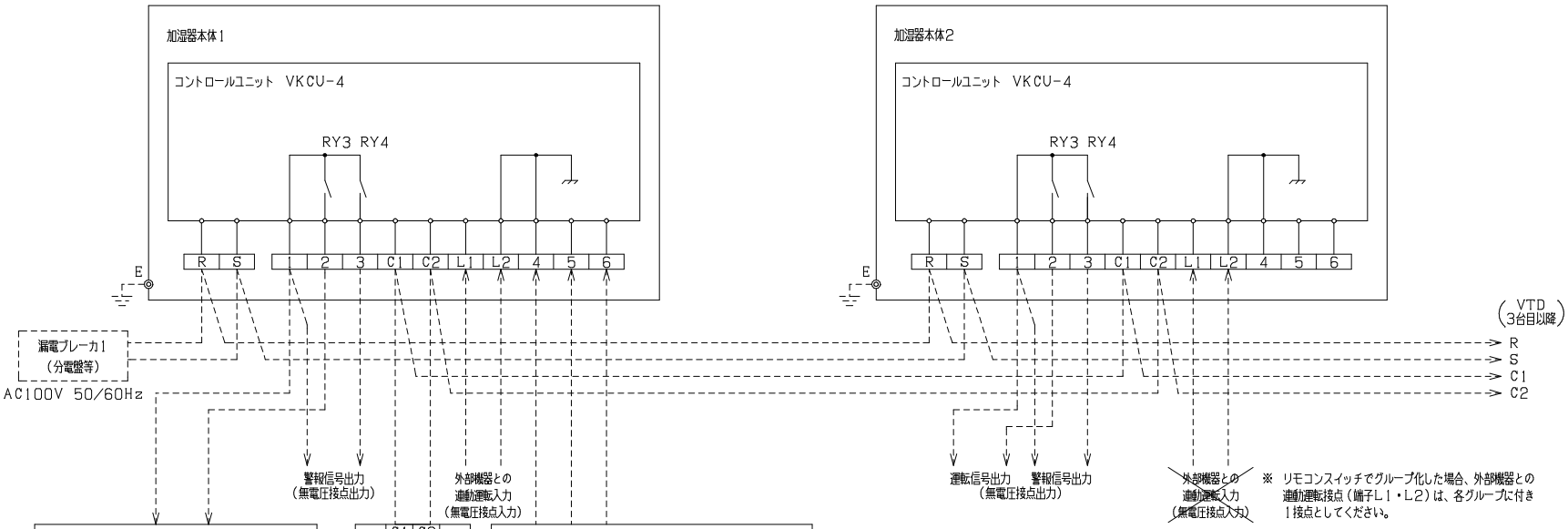
外部指令信号入力は常時入力（2心×1本）または瞬時入力（3心×1本）、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。
※加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

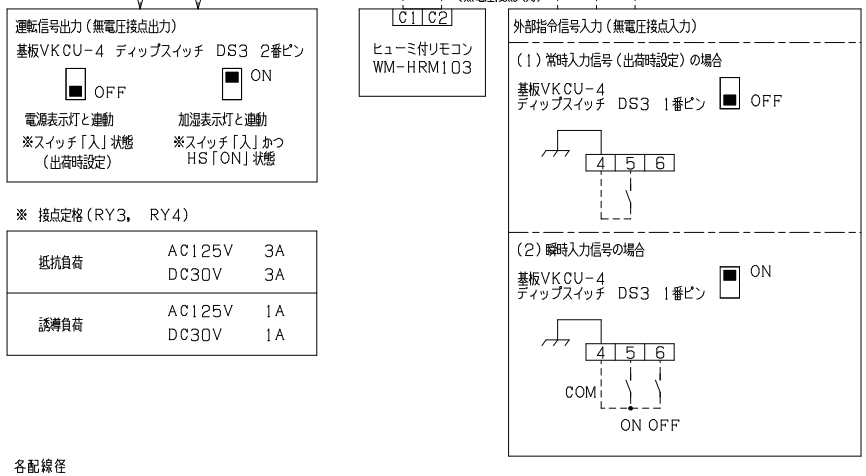
※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合 1A以上、
100グループまで接続の場合 1.5A以上、200グループの場合 3A以上としてください。

	総配線長		1000m	1500m	2000m
外部指令信号線	配線径	0.75mm²	140グループ	90グループ	70グループ
		1.25mm²	200グループ	160グループ	115グループ

作成日 2023／08／31	図面名称 ウエットマスター VTD WM-VTD3201・6401 結線参考図		
更新日 2023／08／31	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図　番 ATDQSJ00005		訂正回数 0	葉　別 1／1



※ リモコンスイッチでグループ化した場合、外部機器との連動運転接点（端子L1・L2）は、各グループに付き1接点としてください。



※ 接点定格（RY3, RY4）

抵抗負荷	AC125V	3A
	DC30V	3A
誘導負荷	AC125V	1A
	DC30V	1A

各配線径

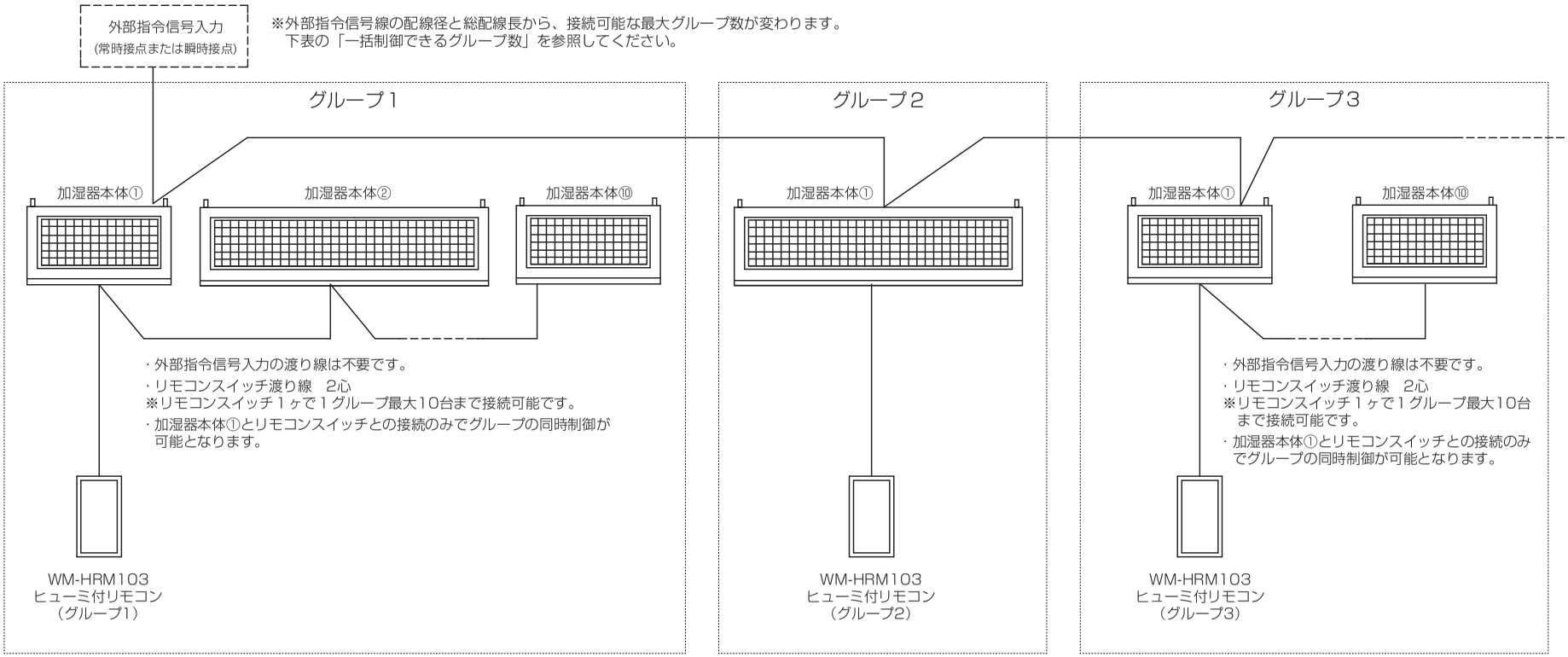
電源（R, S）	1.25mm²	M4ねじ用
ヒューミ付リモコン（C1, C2）	0.5~0.75mm²	M3ねじ用
外部指令信号入力（4, 5, 6）	0.75~1.25mm²	M3ねじ用

※ 通電電圧／電流
DC12V/DC10mA

※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ 加湿器本体端子台への配線は絶縁丸型端子（M4ねじ用およびM3ねじ用）を使用してください。
※ 外部指令信号入力の渡り線は不要です。
※ リモコンスイッチ1ヶで、本体10台まで同時制御可能です。
※ リモコンスイッチは必ずご使用ください。リモコンスイッチを使用しないと運転できません。
※ 外部指令信号入力に瞬時入力信号を使用する場合は、加湿器本体1のコントロールユニットのディップスイッチ（DS3 1番ピン）の設定を変更してください。
※ 運転信号出力を加湿表示灯と連動させる場合は、各加湿器本体のコントロールユニットのディップスイッチ（DS3 2番ピン）を各加湿器毎に設定してください。
※ 外部指令信号入力のうち瞬時入力信号の場合は、100msec（0.1秒）以上の接点を入力してください。
※ アース（E）はD種接地工事にて施工してください。
※ 加湿器の運転を長期休止する場合、点検などやむを得ず電源をOFFとする場合には、給水サービス弁を閉じるなど万一の場合にも水が流れて漏水事故にならないようにしてください。
※ ヒューミディスタットを別途、使用する場合は加湿器本体端子L1, L2（無電圧接点入力）に接続してください。ヒューミ付リモコンでの設定が必要になるため設定要領書をご参照ください。

作成日 2023／08／14	図面名称 ウエットマスター VTD WM-VTD3201・6401（ヒューミ付リモコン付属）結線要領図		
更新日 2023／08／14	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図 番 ATDQSJ00303		訂正回数 0	葉 別 1／1

●WM-VTD3201・6401　複数グループを外部指令信号入力（遠方発停）で一括制御する場合の結線例



必ず１グループに1つリモコンスイッチが必要です。リモコンスイッチ無しでの運転はできません。

外部指令信号入力は常時入力（2心×1本）または瞬時入力（3心×1本）、無電圧接点入力となり、各グループにおける加湿器本体①のみの結線となります。
※加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチで常時入力または瞬時入力を選択してください。なお、出荷時は常時入力の設定となっています。

一括制御できるグループ数

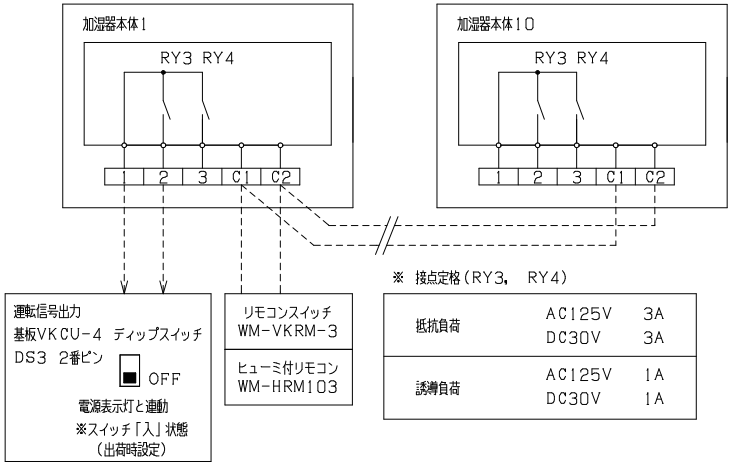
※外部指令信号入力の接点容量は、50グループまでの接続の場合 1A以上、
100グループまで接続の場合 1.5A以上、200グループの場合 3A以上としてください。

	総配線長		1000m	1500m	2000m
外部指令信号線	配線径	0.75mm²	140グループ	90グループ	70グループ
		1.25mm²	200グループ	160グループ	115グループ

作成日 2023／08／31	図面名称 ウエットマスター VTD WM-VTD3201・6401 （ヒューミ付リモコン付属）結線参考図		
更新日 2023／08／31	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図　番 ATDQSJ00304		訂正回数 0	葉　別 1／1

WM-VTD3201/WM-VTD6401　グループ毎に「運転信号」・「警報信号」を出力させる結線例

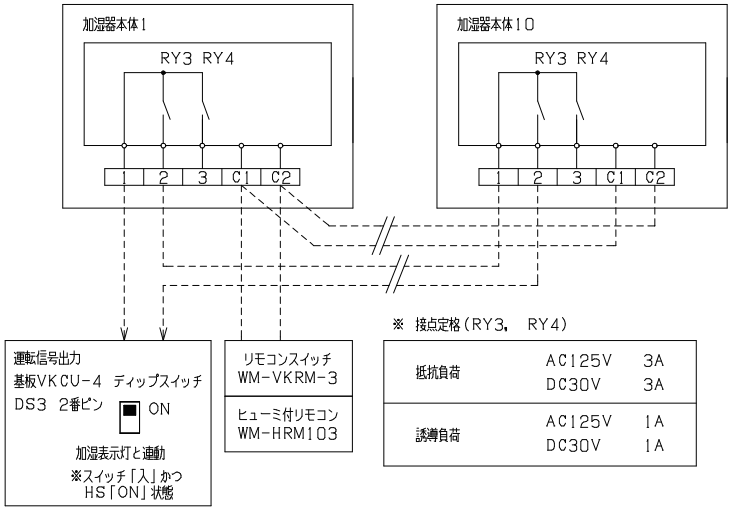
運転信号の出力　リモコンの「電源表示灯」と連動させる場合



※ 接点定格（RY3, RY4）

抵抗負荷	AC125V	3A
	DC30V	3A
誘導負荷	AC125V	1A
	DC30V	1A

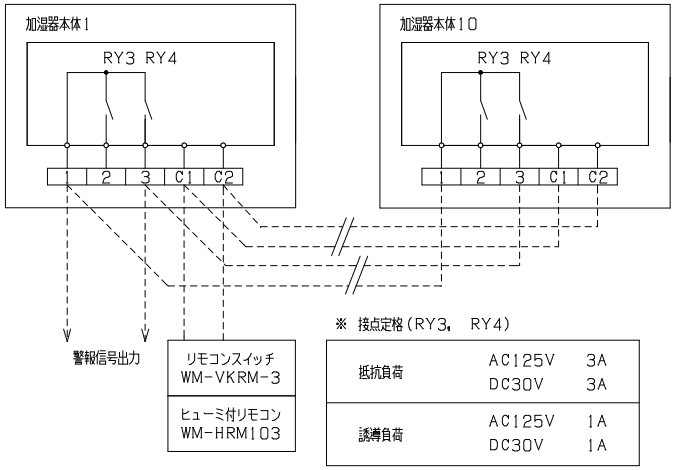
運転信号の出力　リモコンの「加湿表示灯」と連動させる場合



※ 接点定格（RY3, RY4）

抵抗負荷	AC125V	3A
	DC30V	3A
誘導負荷	AC125V	1A
	DC30V	1A

警報信号の出力



※ 接点定格（RY3, RY4）

抵抗負荷	AC125V	3A
	DC30V	3A
誘導負荷	AC125V	1A
	DC30V	1A

※ 破線部分は客先ご用意となります。
※ 加湿器本体端子台への配線は絶縁丸型端子（M3ねじ用）を使用し、線径は（C1, C2）0.5～0.75mm^2 をご使用ください。
※ 「運転信号」「警報信号」以外の配線については配線要領図を確認してください。

作成日 2023/08/14	図面名称 ウエットマスター VTD WM-VTD3201・6401 結線参考図		
更新日 2023/08/14	部品コード	ウエットマスター株式会社 WETMASTER CO., LTD	
図番 ATDQSJ00006		訂正回数 0	葉別 1/1

3 運転動作

3-1 リモコンスイッチによる運転動作

表 -3 リモコンスイッチの表示

（点灯：○、消灯：－ を示します）

運転状態		A		B		C		D	E
		加湿運転		加湿運転（ヒューミ：ON）		待機状態（ヒューミ：OFF）		加湿材乾燥運転	運転停止
ヒューミディスタット		無		有				有無共通	
ファン強弱		強	弱	強	弱	強	弱	強弱共通	
表示灯	電源	○	○	○	○	○	○	－	－
	加湿	○	○	○	○	－	－	－	－
	強	○	－	○	－	○	－	－	－
	弱	－	○	－	○	－	○	－	－
	加湿材乾燥	－	－	－	－	－	－	○	－
	警報	－	－	－	－	－	－	－	－

A：ヒューミディスタット無の場合は、加湿運転 A のみとなります。

B：ヒューミディスタット有の場合でヒューミディスタット接点が ON であれば加湿運転 B になります。

C：加湿運転中 B にヒューミディスタットが OFF になると、待機状態 C になります。
ヒューミディスタットが ON になれば加湿運転 B を再開します。

D：給電積算時間（元電源 ON）を監視し、24 時間毎に自動で加湿材乾燥運転 D を実施します（初回のみ給電 12 時間後に乾燥運転を行い、以降は 24 時間毎に乾燥運転を行います）。ただし、加湿器運転中に定時乾燥運転になった場合は、加湿材乾燥表示灯は点灯しません。

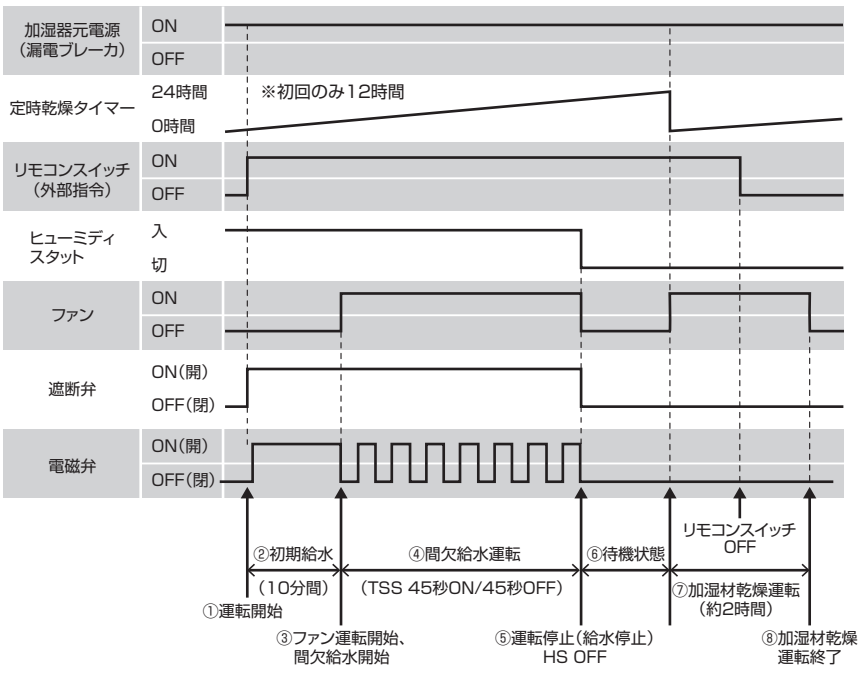
E：加湿中 A B 、または待機状態 C にて運転ボタンを押すと運転停止 E の状態になります。

※リモコンスイッチまたは外部指令信号入力による運転 OFF 後の再運転時や加湿材乾燥運転時のファン強弱は、運転停止前の状態が「強」であれば「強」で運転し、運転停止前の状態が「弱」であれば「弱」で運転を開始します。

3-2 基本的な運転動作

- 運転ボタンまたは外部指令信号入力、およびヒューミディスタット ON 時など、加湿器の運転開始時はファンを停止した状態で連続給水を行って加湿モジュールを湿潤させ、給水による臭い成分などの洗い流しを行います（初期給水 10 分間）。
- 初期給水後、間欠給水（TSS：Time Sharing System）となり、ファンが運転し加湿を行います。
- 加湿材乾燥運転は給水を停止した状態でファンのみを運転させ、加湿モジュールを乾燥（約 2 時間）させた後、自動停止します（定時乾燥機能）。

図 -11 運転動作タイミングチャート



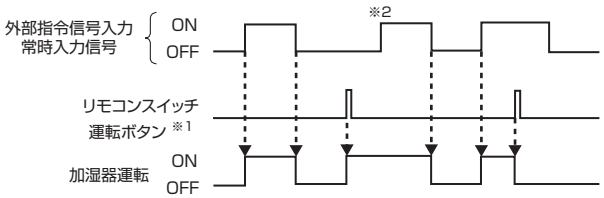
基本運転動作

①運転ボタンまたは外部指令信号入力、およびヒューミディスタット ON による運転開始
②初期給水開始（連続給水、ファン OFF）
③ファン運転開始、間欠給水開始
④間欠給水運転
⑤ヒューミディスタット OFF による運転停止
⑥待機状態（給水停止）
⑦定時乾燥タイマーによる加湿材乾燥運転（約 2 時間）
⑧加湿材乾燥運転終了（ファン停止）
※待機中、再度ヒューミディスタット ON により運転開始した場合、初期給水の動作に戻ります。

3-3 リモコンスイッチ、外部指令信号入力の後押し優先機能

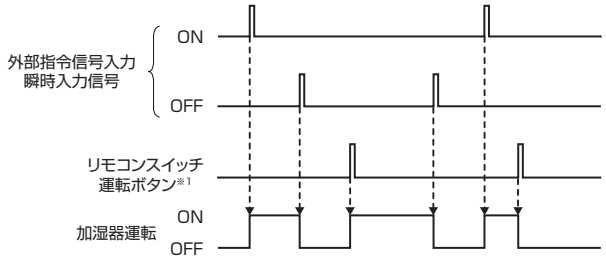
- リモコンスイッチでの発停の他に外部指令信号入力による発停を併用する場合、後押し優先で動作します（図 -12、13）。
- 外部指令信号入力の種類は常時入力と瞬時入力に対応しています。出荷時設定は常時入力信号となっています。瞬時入力信号とする場合は、P.32「4-5 外部指令信号入力による遠方発停設定」を参照して設定を変更してください。

図 -12 常時入力信号動作タイミングチャート
（ヒューミディスタット ON 時）



※ 1：運転ボタンは、停止中に押すと運転し、運転中に押すと停止します。
※ 2：後押し優先動作のため、外部指令信号入力で強制停止させる場合は接点 ON → OFF 入力が必要になります。また、強制運転させる場合は接点 OFF → ON 入力が必要になります。

図 -13 瞬時入力信号動作タイミングチャート
（ヒューミディスタット ON 時）



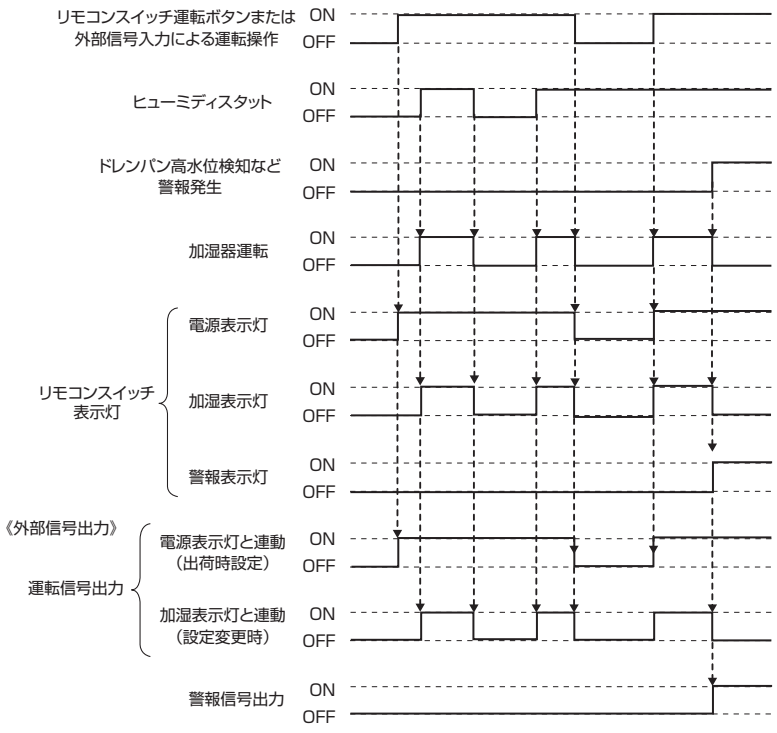
※ 1：運転ボタンは、停止中に押すと運転し、運転中に押すと停止します。

3-4 運転動作と外部信号出力（運転信号、警報信号）

- 運転信号はリモコンスイッチまたは外部指令信号入力による運転操作状態であることを示す電源表示灯との連動、またはヒューミディスタット ON で加湿器が運転していることを示す加湿表示灯との連動のどちらかを選択できます。
  出荷時設定では、電源表示灯と連動して出力するように設定されています。加湿表示灯と連動させる場合には P.29「4-3-2 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定」を参照して設定を変更してください。
- 警報信号はドレンパン高水位検知など安全保護機能作動時に出力されます。警報発報時には**警報を発報した加湿器の運転を停止**し、リモコンスイッチの警報表示灯が点灯します。復旧するには警報の原因を解消した後に、加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にしてください。

※リモコンスイッチの運転ボタンによる入 / 切では解除されません。

図 -14 運転信号出力タイミングチャート



3-5 静音モード運転への切替

- 静音モード運転は、標準モード運転と比べて運転音を小さくできます。ただし、加湿量は低くなります(P.42「5 仕様」参照)。
- 製品出荷時には標準モード運転にセットしてあります。静音モード運転を行う場合は、本体内電装部のコネクタの差し替え作業が必要です(図 -15)。

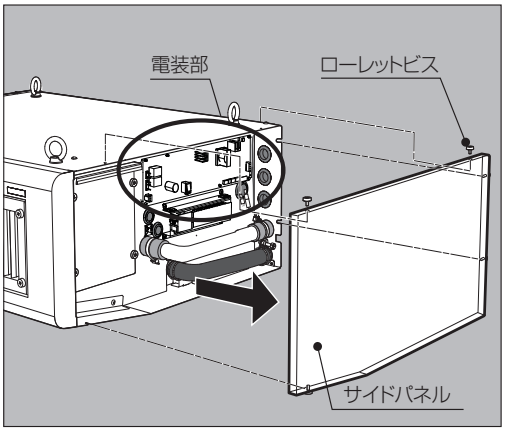
図 -15 静音モード運転への切替のためのコネクタ差し替え

⚠警告

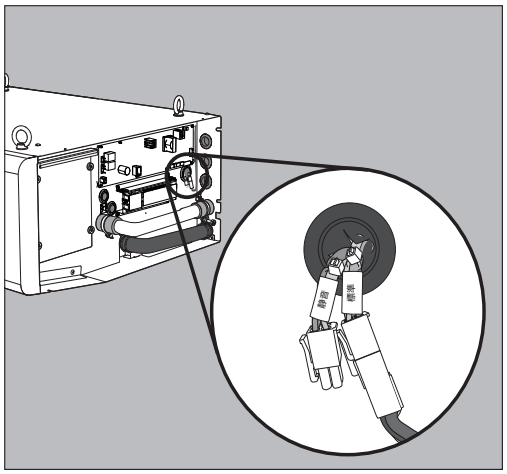
コネクタ差し替え作業は、必ず加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にし、電源供給を停止してから行う

❗通電したままの作業は感電の原因になります。

①コネクタは正面から見て右側のサイドパネルを外した電装部にあります。ローレットビス（白）5 個を外し、サイドパネルを取り外してください。



②差し替え時には、コネクタをしっかりもって確実に作業してください。配線を持って引っ張ると、線の抜けや接触不良の原因になります。



4 各種設定

4-1 設定する前に

4-1-1 本書の見方

- VTD タイプは、リモコンスイッチに、ヒューミディスタット機能有 / 無を用意しており、それぞれの機器組み合わせにより設定作業の項目が異なります。

	ヒューミディスタット機能無し	ヒューミディスタット機能有り
加湿器本体	VTD3201 / VTD6401	
リモコンスイッチ	標準リモコンスイッチ	ヒューミ付リモコン

- 本書では、各設定項目の作業に該当する加湿器本体、リモコンスイッチ、湿度検知機器の組み合わせを以下のように記しています。
  また、本書ではヒューミディスタット（湿度調節器）を「ヒューミ」または「HS」と略して表記する場合があります。
- 制御グループパターンイメージ図中の○は湿度検知するヒューミディスタット、×は使用しないヒューミディスタットを表します。

例 1）全ての機器構成で対象となる設定作業

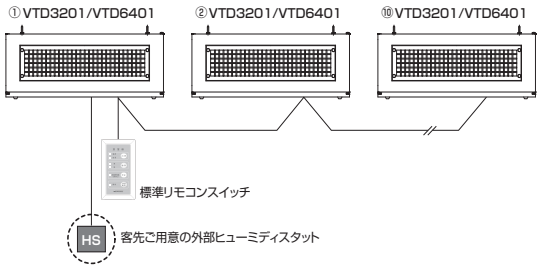
加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

機器構成が該当する設定作業

機器構成が該当しない設定作業

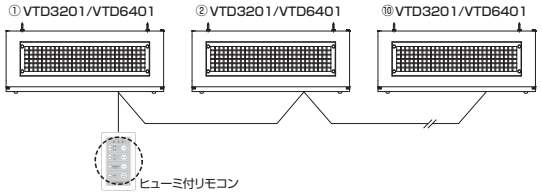
例 2）VTD3201またはVTD6401に標準リモコンスイッチを接続し、
客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う場合で対象となる設定作業

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS付	HS 付リモコン
		外部 HS



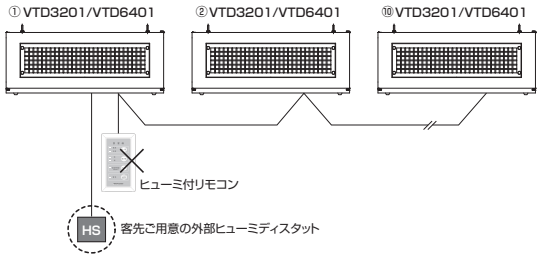
例 3）VTD3201またはVTD6401にヒューミ付リモコンを接続し、ヒューミ付リモコンで湿度検知を行う場合で対象となる設定作業

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS



例 4）VTD3201またはVTD6401にヒューミ付リモコンを接続し
客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知を行う場合で対象となる設定作業

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS



4-1-2 出荷時設定一覧

- 本加湿器の出荷時の設定状態は以下の通りです。
- **[基本設定]のリモコンスイッチ初期設定は、はじめての加湿器運転前には必ず設定が必要です。設定しない場合、加湿器は運転しません。**
- 各項目で出荷時設定から変更が必要な場合は、設定変更手順参照ページを参考に設定変更を行ってください。

[基本設定]

設定項目	設定内容	設定変更手順参照ページ
リモコンスイッチ初期設定	**出荷時未設定　※はじめての加湿器運転前には、必ず設定してください。**	P.27 参照
外部指令信号入力による遠方発停	**常時入力信号〔出荷時設定〕**	P.32 参照
	瞬時入力信号	

[ヒューミ付リモコン使用時の設定]

設定項目	設定内容								設定変更手順参照ページ
湿度検知を行う機器	**ヒューミ付リモコン〔出荷時設定〕**								P.34 参照
	客先ご用意の外部ヒューミ								
ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の外部機器との連動運転	**しない〔出荷時設定〕**								P.35 参照
	する								
ヒューミ付リモコンによる湿度検知の感度設定	**高い〔出荷時設定〕**								P.36 参照
	低い								
ヒューミ付リモコンによる湿度検知時の設定湿度	35% RH	**40% RH〔出荷時設定〕**	45% RH	50% RH	55% RH	60% RH	65% RH	70% RH	P.37 参照

[便利機能] この機能を使用しない場合も、加湿器は運転できます

機能項目		使用例	設定手順参照ページ
外部信号出力	警報信号出力	警報発報の状態監視を行う場合	P.28 参照
	運転信号出力	スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合**〔出荷時設定〕**	P.29 参照
		実際に加湿運転しているかどうかの状態監視を行う場合	
外部機器との連動運転		空調機などの外部機器との連動運転を行う場合	P.30 参照

4-1-3 設定作業の位置と詳細

- 機器構成、設定項目により、「リモコンスイッチで行う設定作業」、「加湿器本体内コントロールユニットディップスイッチで行う設定作業」があります。それぞれの位置詳細は図 -16 ～ 17 のとおりです。

図 -16 リモコンスイッチ詳細

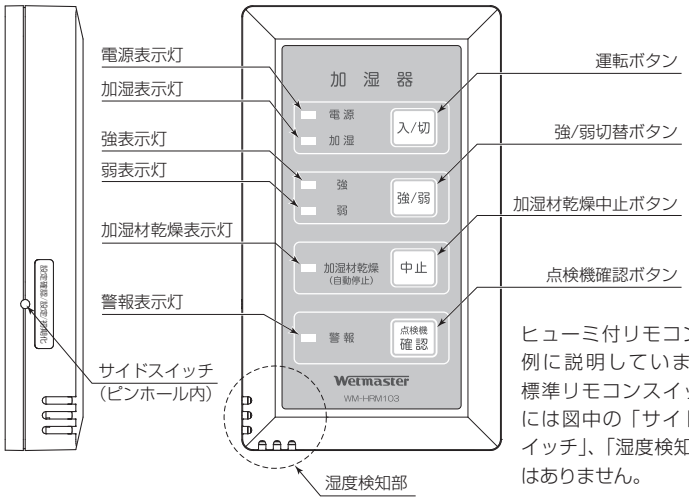
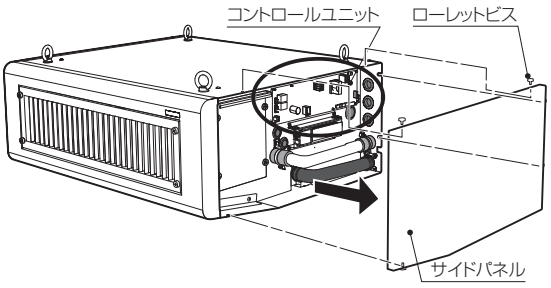
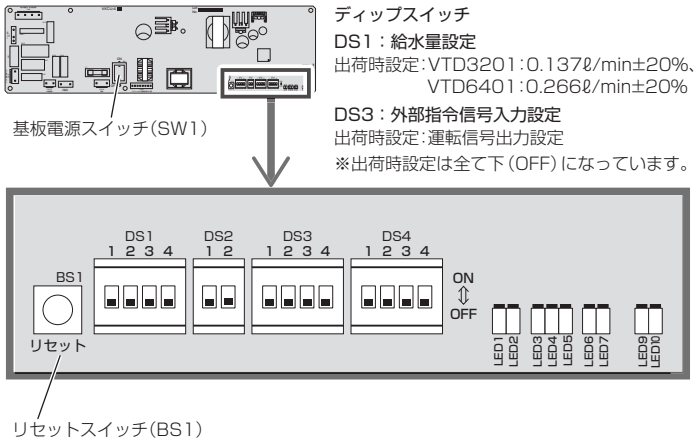


図 -17 コントロールユニット外観略図と LED 表示内容

コントロールユニットは正面から見て右側のサイドパネルを外したところにあります。ローレットビス（白）5 個を外し、サイドパネルを取り外してください。



<コントロールユニット詳細>



コントロールユニット LED 表示内容

LED 番号（色）	LED 点灯表示内容
LED1（緑）	リモコンスイッチ通信時にゆっくり点滅（0.5 秒サイクル）、通信不通時は早い点滅（0.1 秒サイクル）
LED2（黄）	給水ユニット作動回数に応じて点滅 / 点灯 （50 万回以上作動時＝ 0.5 秒サイクルの点滅、95 万回以上作動時＝ 0.1 秒サイクルの点滅、100 万回作動時＝点灯）
LED3（赤）	ドレンパン高水位検知時に点灯 〔点灯解除の方法はリセットスイッチ（BS1）を押す〕
LED4（緑）	ドレン排水用ポンプ（オプション）接続時、ドレン排水用ポンプ高水位時に点灯 〔点灯解除の方法はリセットスイッチ（BS1）を押す〕
LED5（黄）	予備
LED6（赤）	予備（運転中に点灯しても警報ではありません）
LED7（緑）	予備
LED9（赤）	予備
LED10（緑）	予備（運転中に点灯しても警報ではありません）

4-2 リモコンスイッチ初期設定 試運転前 設定必須

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

【動画】
リモコンスイッチ初期設定

4-2-1 アドレスの設定方法

リモコンスイッチと加湿器本体を結線した後、加湿器の運転前にはアドレスの設定が必要です。アドレスの設定をすることで、当該リモコンスイッチに接続されている加湿器本体台数の認識、設定を行います。この設定がされていない場合、加湿器を運転することができません。

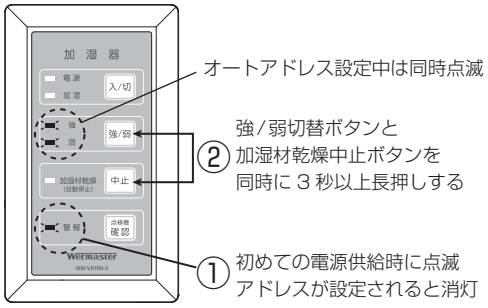
● 以下の点を確認してアドレスの設定を行ってください。

□リモコンスイッチと加湿器本体間の配線接続（C1、C2）が終了している。
□１つのリモコンスイッチで複数の加湿器本体を制御する場合、各加湿器本体間の渡りの配線接続（C1、C2）が終了している。
□１つのリモコンスイッチで複数の加湿器本体を制御する場合、加湿器本体は 10 台以下であること。

① １つのリモコンスイッチに接続している**すべての加湿器に電源を供給する（加湿器元電源の漏電ブレーカを ON）**。
- 電源供給の際、全ての表示灯が点滅（約５秒間）します。その後、警報表示灯が点滅し続けますが、アドレスが設定されると消灯します（図 -18 ①）。

②強 / 弱切替ボタンと加湿材乾燥中止ボタンを同時に３秒以上長押しする（図 -18 ②）。
- 以上の操作を行うと自動でアドレスの設定が行われます（オートアドレス機能）。
- オートアドレス設定中は強表示灯・弱表示灯が 0.5 秒間隔で同時に点滅し、約 1 分後に消灯します。その後、加湿表示灯が加湿器本体接続台数分の回数を 0.5 秒間隔で点滅し、３回繰り返した後消灯します。以上でアドレスの設定は終了です（所要時間最大２分）。

図 -18 アドレスの設定方法



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

表 -4 アドレス設定時のリモコンスイッチ表示

表示灯	電源 ON 時（約５秒間）	アドレスの設定			
		設定前	設定中	設定終了時	終了後
電源	☼	—	—	—	—
加湿	☼	—	—	☼※	—
強	☼	—	☼	—	—
弱	☼	—	☼	—	—
加湿材乾燥	☼	—	—	—	—
警報	☼	☼	—	—	—

- 表内の ☼ は点滅を示します。

※アドレスの設定終了時は接続台数分の点滅を３回繰り返します。
（例）加湿器４台接続の場合
加湿表示灯点滅４回を３回繰り返す

● オートアドレス設定中は、リモコンスイッチの何れのボタンを押しても反応しません。
● １台もアドレスの設定ができなかった場合は、警報表示灯が点滅します。
● 加湿表示灯が接続台数分の回数を点滅しなかった場合や警報表示灯が点滅した場合、正しくアドレスの設定ができていません。P.26 図 -17 を参照し、コントロールユニットの LED1（緑）が「点滅していない」、または「早い点滅（0.1 秒サイクル）」となっていないかを確認してください。「点滅していない」場合には電源を確認してください。「早い点滅（0.1秒サイクル）」の場合にはリモコンスイッチ配線および本体間の渡りの信号配線（C1，C2）を確認し、再度アドレスの設定を行ってください（再設定を行う場合、上記②からの操作となります）。

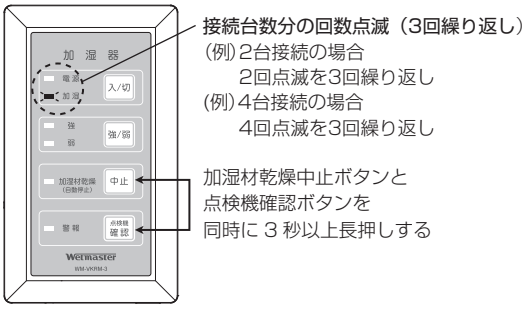
4-2-2 加湿器本体接続台数の確認方法

● 下記方法でアドレスの設定終了後にリモコンスイッチ 1 台に加湿器本体が何台接続されているかを確認できます。

①表示灯が全て消灯していることを確認する。
②加湿材乾燥中止ボタンと点検機確認ボタンを同時に３秒以上長押しする（図 -19）。
以上で接続台数確認を開始し、確認終了後自動的に終了します。

● 接続台数の表示は表 -1 のアドレスの設定終了時と同じです。加湿表示灯が加湿器本体の接続台数分の回数を 0.5 秒間隔で点滅し、３回繰り返した後に消灯します。

図 -19 接続台数確認方法



※イラストは標準リモコンスイッチで表していますが、ヒューミ付リモコンの場合も同様です。

4-3 外部信号出力設定

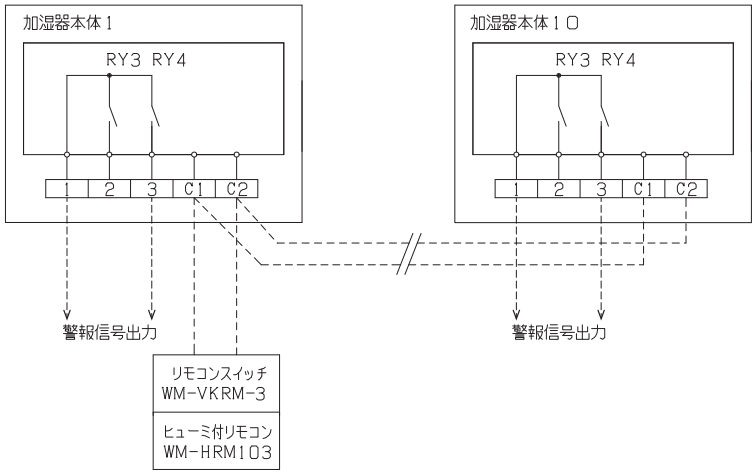
加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

4-3-1 警報信号出力（外部信号出力）を使用する場合

- 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合、警報信号は各加湿器の端子 1、3 から個別に出力されます。
- 警報信号は安全保護機能が作動した時に出力されます。

図 -20

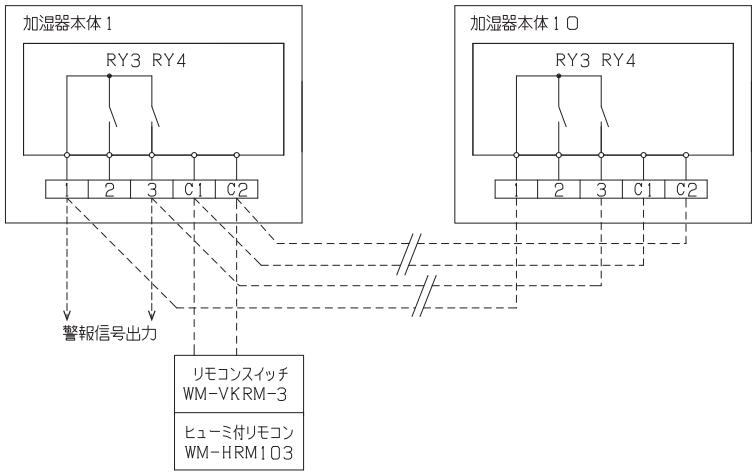
個別に警報出力させる場合



警報信号出力	
▪ 無電圧接点出力（a 接点）	
抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1A DC30V 1A

安全保護機能
1）ドレンパン高水位検知 （運転停止 / 警報表示灯点灯）

グループ毎に警報出力させる場合



4-3-2 運転信号出力（外部信号出力）を使用する場合のディップスイッチ設定

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

⚠警告

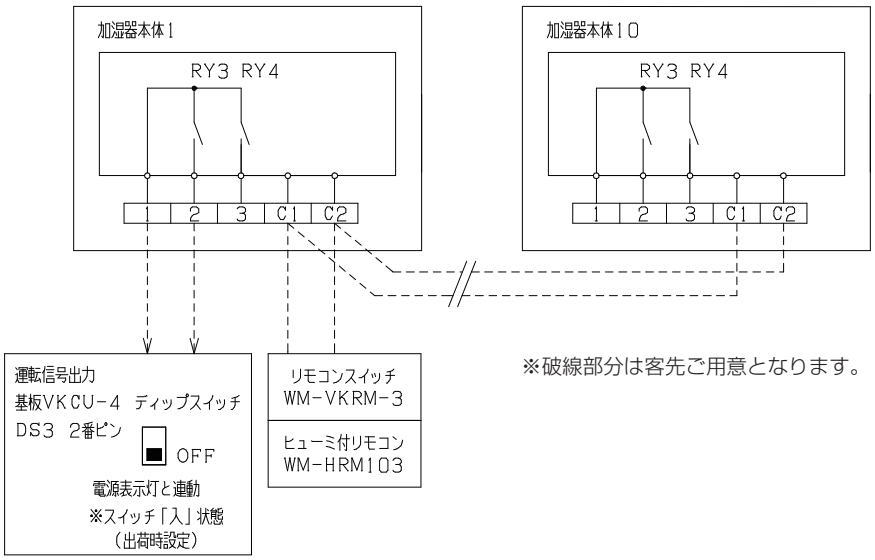
ディップスイッチ切替作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

通電したままの作業は感電の原因になります。

- 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合、運転信号は各加湿器の端子 1、2 から個別に出力されます。
- 運転信号はリモコンスイッチの電源表示灯（運転ボタン「入」の状態）と連動して出力されます（出荷時設定）。加湿表示灯（運転ボタン「入」かつヒューミディスタット ON の状態）と連動させる場合は、コントロールユニット（P.26 図 -17）のディップスイッチ（DS3 2 番ピン）を切り替えてください。
- ディップスイッチ切替作業は、必ず加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にし、電源供給を停止してから行ってください。通電したままディップスイッチ切替作業を行うと、設定変更が正しく反映されません。

運転信号の出力 / リモコンの「電源表示灯」と連動させる場合（出荷時設定）

運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」で運転信号を出力します



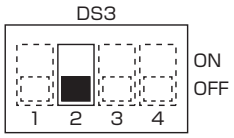
※破線部分は客先ご用意となります。

運転信号出力

- 無電圧接点出力（a 接点）

抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1A DC30V 1A

ディップスイッチ設定

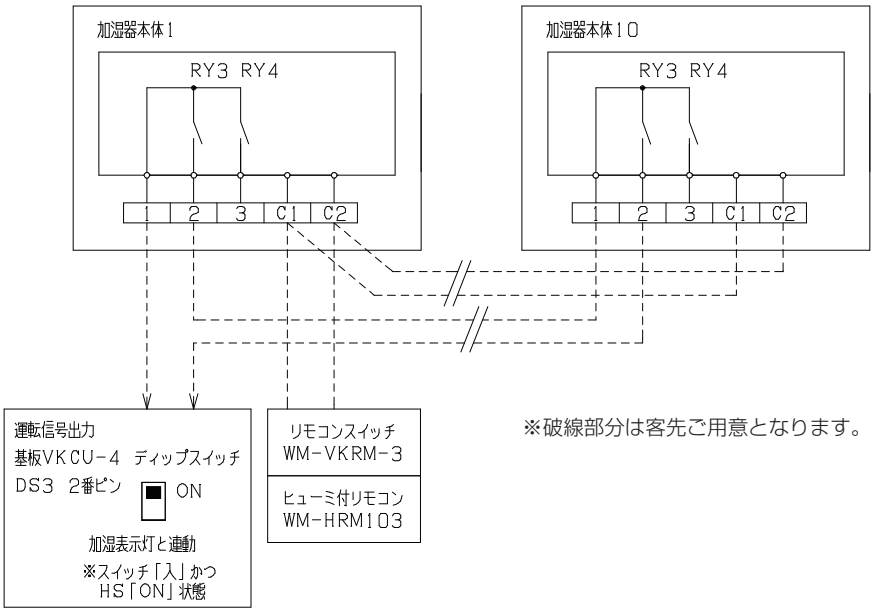


備考

スイッチ切り忘れ防止の遠方監視を行う場合に使用します。

運転信号の出力 / リモコンの「加湿表示灯」と連動させる場合

運転ボタン「入」、または外部指令信号入力「ON」かつヒューミディスタット入力「ON」で運転信号を出力します



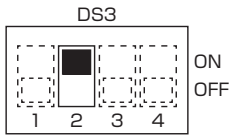
※破線部分は客先ご用意となります。

運転信号出力

- 無電圧接点出力（a 接点）

抵抗負荷	AC125V 3A DC30V 3A
誘導負荷	AC125V 1A DC30V 1A

ディップスイッチ設定



備考

実際に加湿運転しているかどうかの状態監視に使用します。

4-4 外部機器との連動運転設定

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

4-4-1 加湿器とリモコンスイッチの組み合わせと連動運転設定

当項目は、VTD3201 または VTD6401 と標準リモコンスイッチの組み合わせには該当しません。

- 外部機器との連動運転の設定方法は、加湿器本体とリモコンスイッチの組み合わせにより設定方法が異なります。
- 表 -5 は加湿器本体とリモコンスイッチの組み合わせによる外部機器連動の設定作業の有無を示したものです。

表 -5 加湿器本体とリモコンスイッチの組み合わせによる外部機器連動の設定作業

加湿器本体とリモコンスイッチの組み合わせ			連動運転設定可否	外部機器との連動運転設定の概要	参照項
加湿器本体	リモコンスイッチ	湿度検知			
VTD3201 VTD6401	標準リモコンスイッチ	なし	×	この組み合わせでは、 外部機器との連動運転はできません	–
		外部ヒューミディスタット			
	ヒューミ付リモコン	ヒューミ付リモコン	○	ヒューミ付リモコンの外部機器連動の設定が必要	P.31「4-4-2 ヒューミ付リモコンで連動運転を行う場合」
		外部ヒューミディスタット	×	この組み合わせでは、 外部機器との連動運転はできません	–

4-4-2 ヒューミ付リモコンで連動運転を行う場合

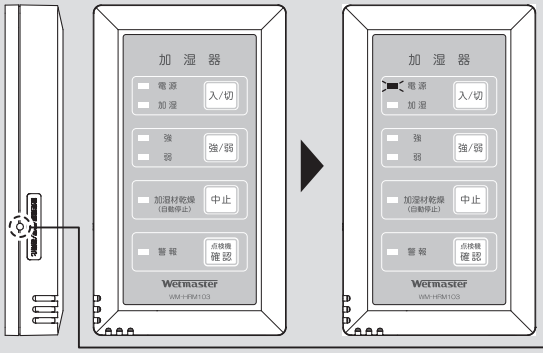
当設定の対象組み合わせ	・VTD3201またはVTD6401とヒューミ付リモコン(HRM103)

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

● 以下の①**ヒューミ付リモコン設定**と、②**配線接続**を行ってください。

①ヒューミ付リモコン設定

1



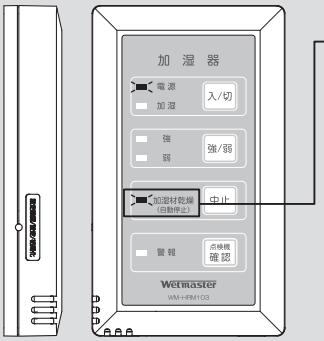
1 -1 外部機器の接点を OFF にします。

1 -2 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 3 秒間長押しします。

1 -3 電源表示灯（緑）が点灯します。

サイドスイッチ
※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

2



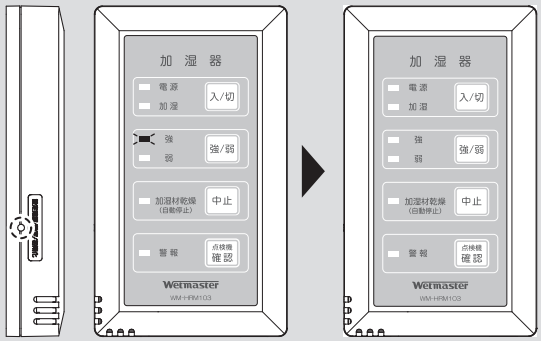
例）加湿器と外部機器を連動運転する

2 加湿器と外部機器を連動する場合は下記表を参照し、**加湿材乾燥表示灯** を点灯させてください。加湿材乾燥表示灯の点灯 / 消灯は、加湿材乾燥中止ボタンを押すことで切り替えができます。

外部機器と連動運転する場合	加湿材乾燥表示灯を**点灯**に切り替える
外部機器と連動運転しない場合（出荷時設定）	加湿材乾燥表示灯を**消灯**に切り替える

※加湿材乾燥表示灯に加え、弱表示灯や警報表示灯が点灯する場合は、出荷時設定から何らかの設定変更がされています。現状の各設定内容を確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」を参照してください。

3



3 -1 サイドスイッチを 2 回押します。

3 -2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

3 -3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

※設定した内容を改めて確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」で確認できます。

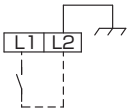
②配線接続

● 外部機器の運転出力は加湿器本体の端子台L1,L2（無電圧接点入力）に接続してください。

※無電圧接点には、最小適用負荷 10mA 以下の接点をご使用ください。また、接点検出用電圧を印加していますので別電源から電圧を印加しないでください。

※外部機器が OFF の時にリモコンスイッチの操作と、外部指令入力による運転が無効となり、加湿器単独の運転を制限することができます。この状態で運転ボタンを押した場合、電源表示灯と加湿表示灯が3秒間交互に点灯します。ただし外部指令入力による運転指示の場合には表示灯は交互点灯しません。

配線接続



通電電圧	電流
DC12V	DC10mA

（無電圧接点入力）

運転時に ON、停止時にOFF となる接点信号を入力してください。

4-5 外部指令信号入力による遠方発停設定

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

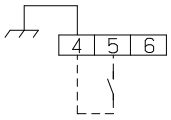
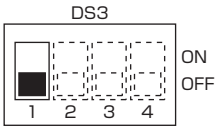
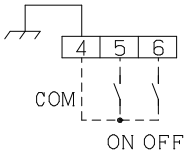
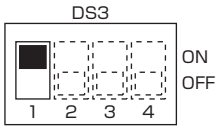
⚠警告

ディップスイッチ切替作業は、
必ず漏電ブレーカを遮断してから行う

❗通電したままの作業は感電の原因になります。

- 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）が可能です（この場合においてもリモコンスイッチの取付が必要となります）。
- 1 つのリモコンスイッチで複数台制御する場合でも、端子 4.5（4.5,6）への接続は「加湿器本体1」のみで全数の運転制御ができます。グループを一括制御する場合は P.16 ～ P.19 の各結線参考図、結線要領図を参照し、結線してください。
- 外部指令信号入力は「常時入力信号」と「瞬時入力信号」に対応しています。出荷時設定は常時入力信号の状態に設定されていますので、瞬時入力信号を使用する場合は配線接続と加湿器本体コントロールユニットのディップスイッチ（DS3 1 番ピン）を切り替えてください（表 -6）。
- ディップスイッチ切替作業は、必ず加湿器元電源の漏電ブレーカを OFF にし、電源を遮断してから行ってください。通電したままディップスイッチ切替作業を行うと、設定変更が正しく反映されません。
- 外部指令制御を使用する場合、任意の発停は「リモコンスイッチ操作による発停」と「外部指令信号入力による発停」により行われ、「後押し優先」となります。

表 -6 外部指令信号入力による遠方発停（外部指令制御）を使用する場合のディップスイッチ設定

信号の種類と配線接続		ディップスイッチ設定	備考
常時入力信号 （出荷時設定）	 通電電圧・電流 DC12V・10mA		運転時に ON、停止時に OFF となる接点信号を入力してください。 ※ディップスイッチの位置は P.26 図 -17 参照
瞬時入力信号	 通電電圧・電流 DC12V・10mA		瞬時入力信号は、100msec（0.1 秒）以上の a 接点の信号を入力してください。 ※ディップスイッチの位置は P.26 図 -17 参照

4-6 ヒューミ付リモコンによる各種設定

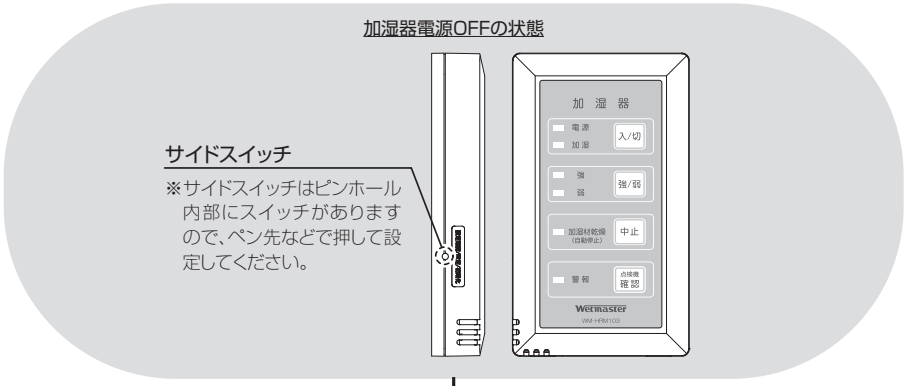
4-6-1 各モードについて

● ヒューミ付リモコンでは表 -7 のように 3 つのモードがあり、各モードによって操作方法が異なります。下記表から各項目のページを参照し、設定・確認を行ってください。

表 -7 各モードの概要

モード	概要	設定方法詳細
設定モード	**a** 使用するヒューミディスタットの選択	P.34
	b ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の外部機器との連動運転設定	P.35
	c 湿度検知の感度変更	P.36
	d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の変更	P.37
設定確認モード	設定モード **a** で設定した内容を確認	P.38 ～ 39
	設定モード **b** で設定した内容を確認	
	設定モード **c** で設定した内容を確認	
	設定モード **d** で設定した内容を確認	
設定初期化モード	一括で設定内容を初期化（出荷時設定の内容へ戻す）	P.40

各モードにおける設定の流れ



設定モード

サイドスイッチを3秒間長押し
↓
電源表示灯（緑）が点灯
↓
上記表 **a** **b** **c** を設定
（設定方法は表記載の各ページ参照）
↓
サイドスイッチを1回押す
↓
上記表 **d** を設定
（設定方法は表記載の各ページ参照）
↓
サイドスイッチを1回押す
↓
強表示灯（橙）が3秒間点灯
↓
設定が保存され、自動的にリモコンの電源OFF

設定確認モード

サイドスイッチを1回押す
↓
電源表示灯（緑）が10秒間点灯
電源表示灯（緑）10秒間点灯中に
上記表 **a** **b** **c** で設定した内容を確認
（確認方法は表記載の各ページ参照）
↓
10秒経過
↓
上記表 **d** で設定した内容を確認
（確認方法は表記載の各ページ参照）
↓
10秒経過
↓
自動的にリモコンの電源OFF

設定初期化モード

サイドスイッチを10秒間長押し
↓
電源表示灯（緑）、加湿表示灯（緑）、
強表示灯（橙）の3ヶ所が3秒間点灯
↓
設定が初期化され、自動的にリモコンの電源OFF

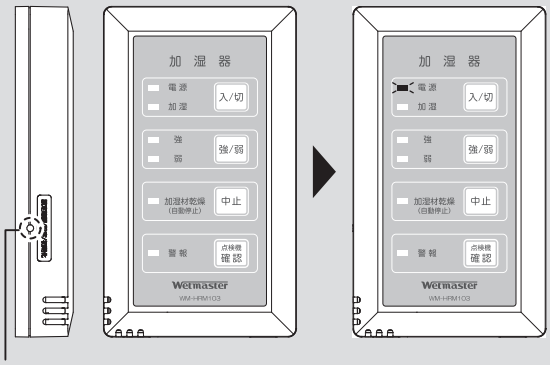
4-6-2 設定モード

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

a 使用するヒューミディスタットの選択

- ヒューミ付リモコンの出荷時設定は、リモコンスイッチ内蔵ヒューミディスタットを使用して湿度検知する設定になっています。客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合に設定変更が必要となります。

1

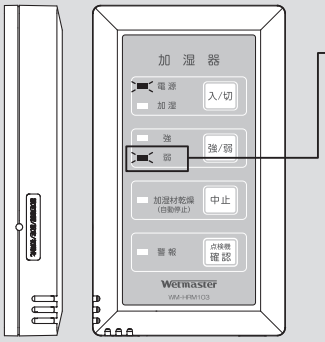


サイドスイッチ
※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

1-1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 3 秒間長押しします。

1-2 電源表示灯（緑）が点灯します。

2



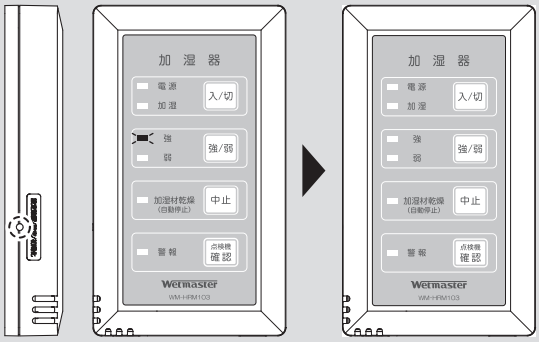
例）加湿器本体側で湿度検知する

2 下記表を参照し、使用するヒューミに応じて**弱表示灯**を点灯または消灯させてください。弱表示灯の点灯 / 消灯は、強 / 弱切替ボタンを押すことで切り替えができます。

客先ご用意の外部ヒューミディスタットで湿度検知する場合	弱表示灯を **点灯** に切り替える
リモコンスイッチ内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合（出荷時設定）	弱表示灯を **消灯** に切り替える

※弱表示灯に加え、加湿材乾燥表示灯や警報表示灯が点灯する場合は、出荷時設定から何らかの設定変更がされています。現状の各設定内容を確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」を参照してください。

3



3-1 サイドスイッチを 2 回押します。

3-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

3-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

※設定した内容を改めて確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」で確認できます。

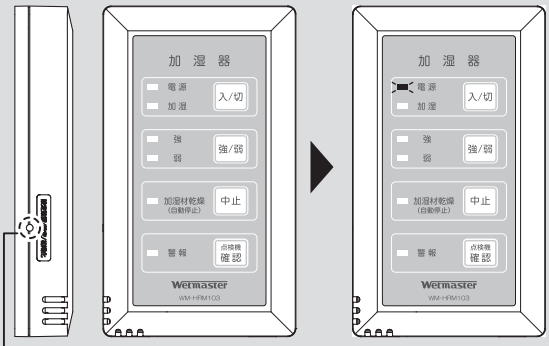
b ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の外部機器との連動運転設定

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

- **VTD3201 または VTD6401 とヒューミ付リモコンの組み合わせで使用し、リモコンスイッチ内蔵ヒューミディスタットで湿度検知する場合にのみ該当する設定です。**
- **加湿器本体の端子（L1, L2）を空調機などの外部機器との連動運転端子として使用することができます。**出荷時設定は「外部機器と連動運転しない」設定となっているため、外部機器と連動運転をする場合に設定変更が必要となります。
- 配線接続については P.31 「4-4-2 ヒューミ付リモコンで連動運転を行う場合」をご参照ください。

※外部機器が OFF の時にリモコンの操作と外部指令入力による運転が無効となり、加湿器単独の運転が制限されます。この状態で運転ボタンを押した場合、電源表示灯と加湿表示灯が３秒間交互に点灯します。ただし外部指令入力による運転指示の場合には表示灯は交互点灯しません。

1



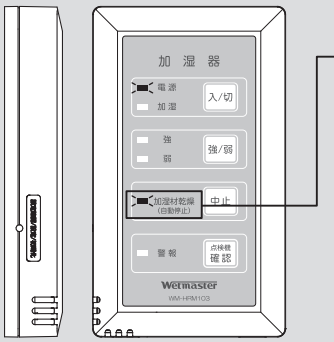
サイドスイッチ
※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

1-1 外部機器の接点を OFF にします。

1-2 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを３秒間長押しします。

1-3 電源表示灯（緑）が点灯します。

2



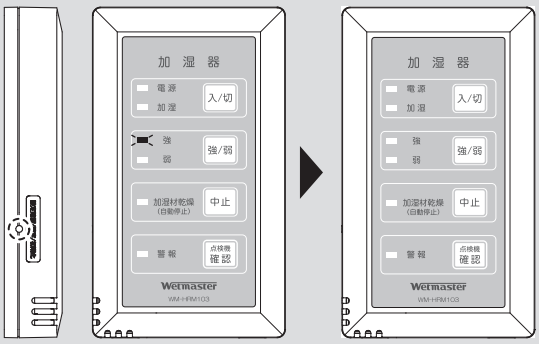
例）加湿器と外部機器を連動運転する

2 加湿器と外部機器を連動する場合は下記表を参照し、加湿材乾燥表示灯を点灯させてください。加湿材乾燥表示灯の点灯 / 消灯は、加湿材乾燥中止ボタンを押すことで切り替えができます。

外部機器と連動運転する場合	加湿材乾燥表示灯を**点灯**に切り替える
外部機器と連動運転しない場合（出荷時設定）	加湿材乾燥表示灯を**消灯**に切り替える

※加湿材乾燥表示灯に加え、弱表示灯や警報表示灯が点灯する場合は、出荷時設定から何らかの設定変更がされています。現状の各設定内容を確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」を参照してください。

3



3-1 サイドスイッチを 2 回押します。

3-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

3-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

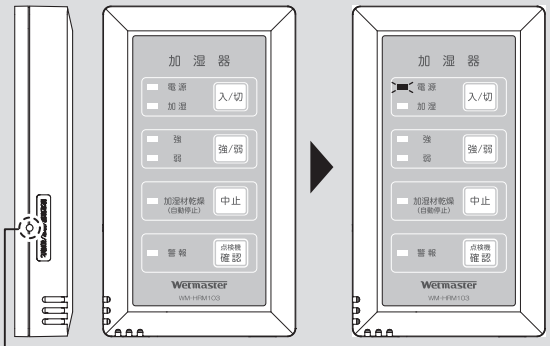
※設定した内容を改めて確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」で確認できます。

C 湿度検知の感度変更

- ヒューミディスタットの湿度検知の感度を「高」・「低」の 2 種類から選択することができます。
  出荷時設定は「高」で、通常は設定変更なしでご使用いただけます。

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

1



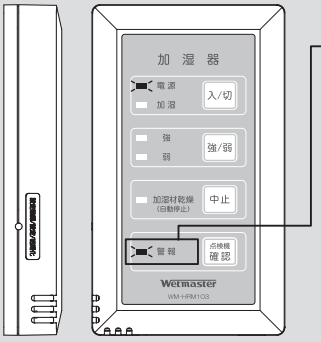
サイドスイッチ

※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

1-1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 3 秒間長押しします。

1-2 電源表示灯（緑）が点灯します。

2



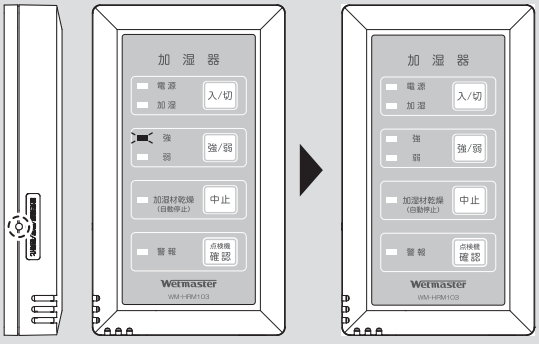
例）感度を「低」へ、変更する

2 湿度検知の感度を変更する場合は下記表を参照し、警報表示灯を点灯または消灯させてください。警報表示灯の点灯 / 消灯は、点灯機確認ボタンを押すことで切り替えができます。

湿度検知の感度「低」	警報表示灯を**点灯**に切り替える
湿度検知の感度「高」（出荷時設定）	警報表示灯を**消灯**に切り替える

※警報表示灯に加え、加湿材乾燥表示灯や弱表示灯が点灯する場合は、出荷時設定から何らかの設定変更がされています。現状の各設定内容を確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」を参照してください。

3



3-1 サイドスイッチを 2 回押します。

3-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。

3-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

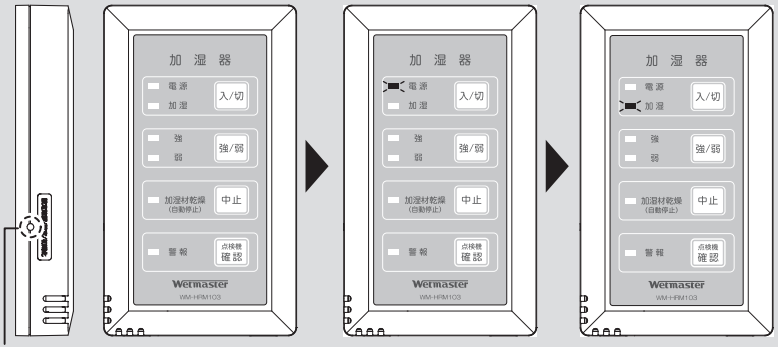
※設定した内容を改めて確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」で確認できます。

d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の変更

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

● 35%RH ～ 70%RH の範囲で 5%単位で設定が可能です。
また、出荷時設定は 40%RH です。設定湿度を変更する場合は、以下の手順で行ってください。

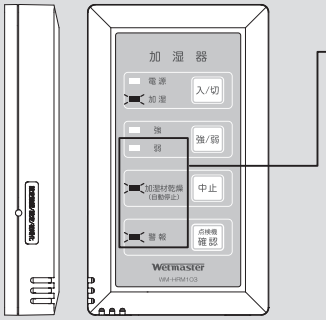
1



サイドスイッチ　※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

1-1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 3 秒間長押しします。
1-2 電源表示灯（緑）が点灯します。
1-3 サイドスイッチを 1 回押します。
1-4 電源表示灯（緑）が消灯し、加湿表示灯（緑）が点灯する。

2

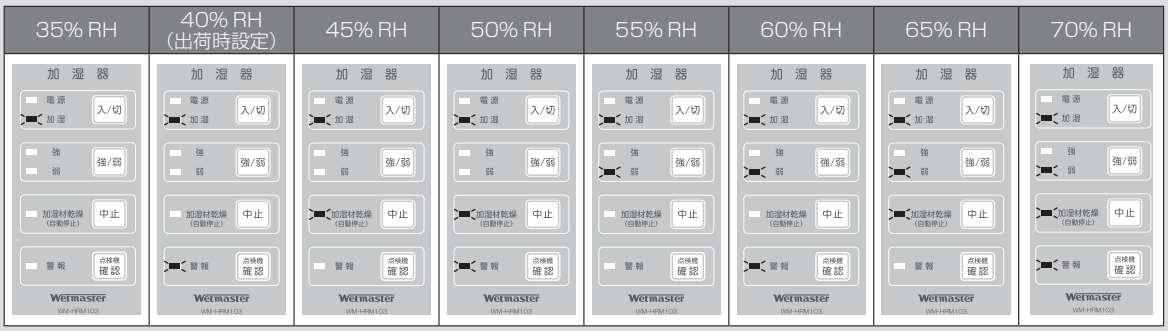


例）設定湿度 50%RH

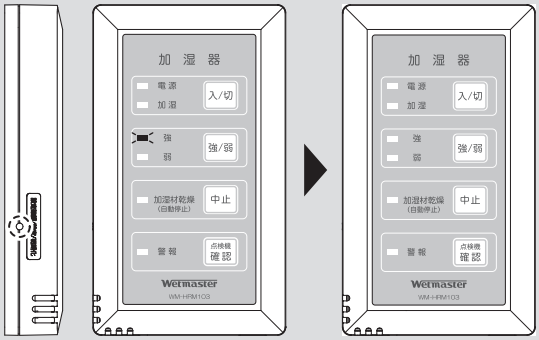
2 設定湿度は、
弱表示灯・加湿材乾燥表示灯・警報表示灯 の点灯 / 消灯の組み合わせによって設定します。
以下の組み合わせ一覧から希望設定湿度の点灯パターンを参照し、希望湿度を設定してください。各表示灯の点灯 / 消灯は、下記の各ボタンを押すことで切り替えができます。
・弱表示灯⇒強 / 弱切替ボタン
・加湿材乾燥表示灯⇒加湿材乾燥中止ボタン
・警報表示灯⇒点検機確認ボタン

設定湿度の表示灯組み合わせ一覧

【■: 点灯、□: 消灯を示します】



3



3-1 サイドスイッチを 1 回押します。
3-2 強表示灯（橙）が 3 秒間点灯します。
3-3 電源が OFF となり、設定保存が完了します。

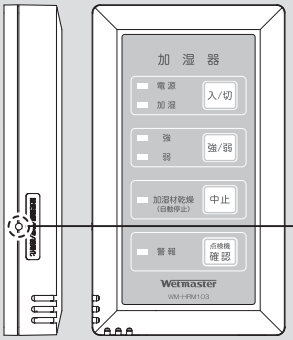
※設定した内容を改めて確認する場合は、P.38「4-6-3 設定確認モード」で確認できます。

4-6-3 設定確認モード

● P.34 ～ 37 の設定モード a · b · c · d の現状の設定状態を確認できます。

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

1

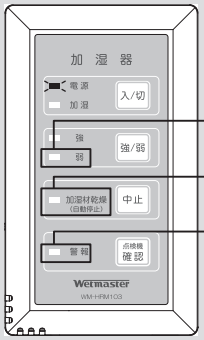


1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 1 回押します。

サイドスイッチ

※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

2



2 電源表示灯（緑）が 10 秒間点灯します。この 10 秒間の間に、各表示灯の点灯または消灯から、

- **a** 湿度検知するヒューミディスタットの確認
- **b** 外部機器と連動運転をするかどうかの確認
- **c** 湿度検知の感度の確認

以上 3 つの現状の設定状態を確認します。
下記表を参照し、各設定状態を確認してください。

a 湿度検知するヒューミディスタットの確認	
弱表示灯が点灯している場合	客先ご用意の外部ヒューミディスタット
弱表示灯が消灯している場合	リモコンスイッチ内蔵ヒューミディスタット

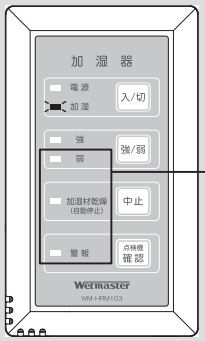
b 外部機器と連動運転をするかどうかの確認	
加湿材乾燥表示灯が点灯している場合	外部機器と連動運転する
加湿材乾燥表示灯が消灯している場合	外部機器と連動運転しない

c 湿度検知の感度の確認	
警報表示灯が点灯している場合	湿度検知の感度「低」
警報表示灯が消灯している場合	湿度検知の感度「高」

▼ 10 秒経過後（次ページへ続く）

▼ 10 秒経過後（前ページからの続き）

3



3 電源表示灯（緑）が消灯し、加湿表示灯（緑）が 10 秒間点灯します。この 10 秒間の間に、

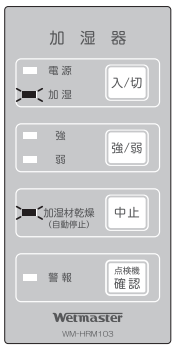
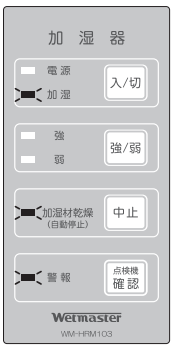
d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の確認

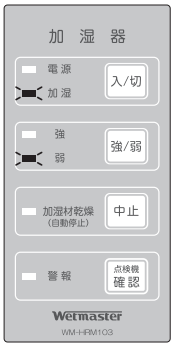
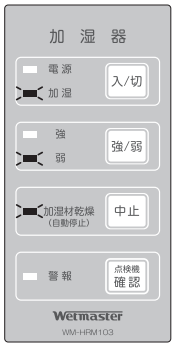
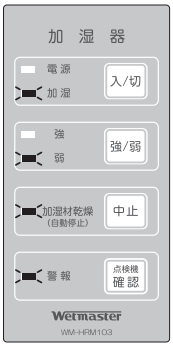
の現状の設定状態を確認します。設定湿度は、

弱表示灯・加湿材乾燥表示灯・警報表示灯 の点灯 / 消灯の組み合わせによって確認できます。以下の組み合わせ一覧から現状の点灯パターンを参照し、設定湿度を確認してください。

設定湿度の表示灯組み合わせ一覧

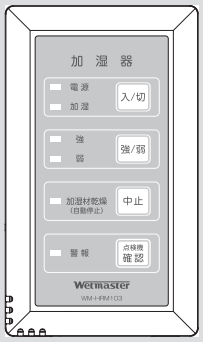
【 ▰ : 点灯、 ▭ : 消灯を示します】

35%RH	40%RH（出荷時設定）	45%RH	50%RH
			

55%RH	60%RH	65%RH	70%RH
			

▼ 10 秒経過後

4



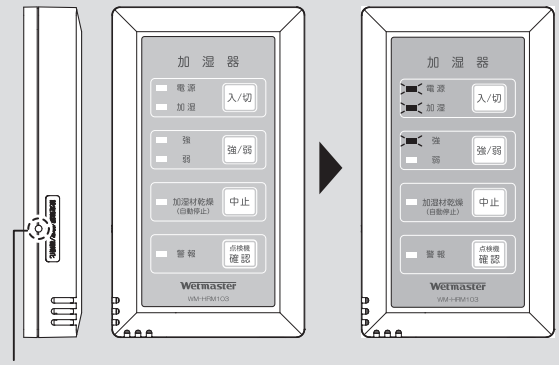
4 加湿表示灯が消灯し、電源が OFF の状態へ戻ります。

4-6-4 設定初期化モード

● ヒューミ付リモコンで設定した内容を一括で初期化します（出荷時設定の内容へ戻る）。

加湿器本体	リモコン	湿度検知
VTD3201 VTD6401	標準	なし
		外部 HS
	HS 付	HS 付リモコン
		外部 HS

1



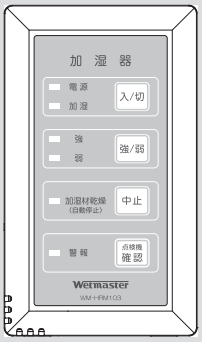
サイドスイッチ

※サイドスイッチはピンホール内部にスイッチがありますので、ペン先などで押して設定してください。

1-1 電源表示灯が消灯している状態（加湿器電源 OFF）で、サイドスイッチを 10 秒間長押しします。

1-2 電源表示灯（緑）、加湿表示灯（緑）、強表示灯（橙）が同時に 3 秒間点灯します。

2



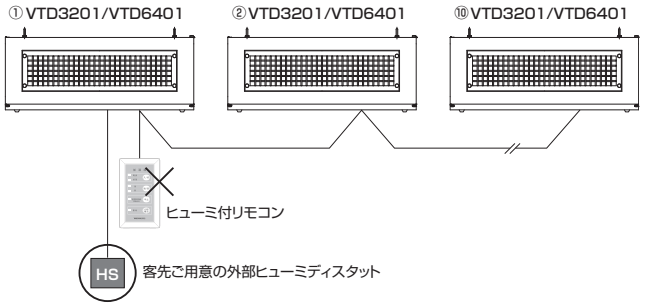
2 電源が OFF の状態へ戻ります。以上で初期化は完了です。各項目の出荷時設定は以下表をご参照ください。

a 使用するヒューミディスタットの選択	リモコンスイッチ内蔵 ヒューミディスタット
b ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の外部機器と連動運転を行うための設定	連動運転しない
c 湿度検知の感度変更	高
d ヒューミ付リモコンで湿度検知する場合の設定湿度の変更	40% RH

4-7 標準グループ制御以外の制御パターンについて

4-7-1 ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する

下記の計装パターンで施工する場合は、ヒューミ付リモコンで湿度検知するヒューミディスタットを選択する設定が必要になります（出荷時設定では「ヒューミ付リモコンで湿度検知」するに設定されています）。
※図中の〇は湿度検知するヒューミディスタット、×は使用しないヒューミディスタットを表します。



- VTD タイプ（複数台）をヒューミ付リモコンでグループ運転させる組合せで、外部ヒューミを使用する。

⇒下記 1 ～ 3 の手順を参照し、設定を行う。

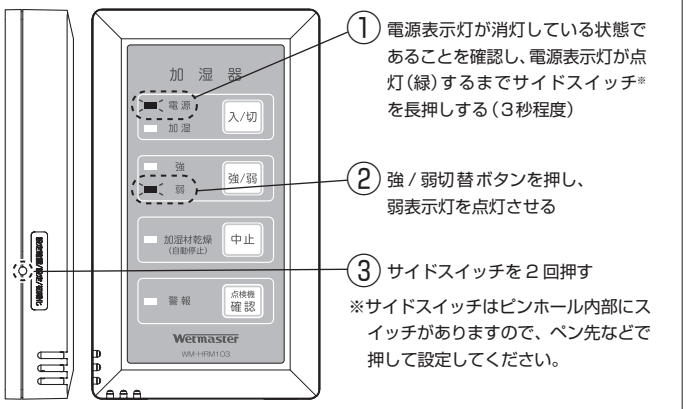
1 電源表示灯が消灯していることを確認後、電源表示灯が点灯（緑）するまでサイドスイッチを長押しします（3秒程度、図 -21 ①）。

2 強 / 弱切替ボタンを押し、弱表示灯を「点灯」または「消灯」させ湿度検知するヒューミディスタットを選択します（図 -21 ②）。

ヒューミディスタットの切替における弱表示灯の点灯状態	
点灯	・客先ご用意の外部ヒューミディスタット
消灯	・ヒューミ付リモコンのヒューミディスタット（出荷時設定）

3 サイドスイッチを 2 回押します（図 -21 ③）。強表示灯が 3 秒間点灯し、その後、強表示灯が消灯したら設定が保存され、完了です。

図 -21



5 仕様

5-1 VTD3201/VTD6401

＊表内□ / □の数字は、50/60Hz の値を示します。

機種・型式		滴下浸透気化式加湿器 VTD			
型番		WM-VTD3201		WM-VTD6401	
運転モード※1		標準モード	静音モード	標準モード	静音モード
標準加湿能力	ファン強	3.2/3.2kg/h	2.9/2.8kg/h	6.4/6.4kg/h	5.6/5.3kg/h
	ファン弱	2.9/2.8kg/h	2.2/2.0kg/h	5.6/5.3kg/h	4.1/3.7kg/h
	＊上記は、ファン強：吸込空気条件 25℃・30%RH、ファン強時 ファン弱：吸込空気条件 25℃・30%RH、ファン弱時の値です。 標準加湿能力は機外静圧や吸込空気条件により変化しますので、諸条件が異なる場合は仕様書巻末の加湿能力の算出手順でご確認ください。				
標準風量	ファン強	800/800m^3/h	670/630m^3/h	1,600/1,600m^3/h	1,350/1,260m^3/h
	ファン弱	670/630m^3/h	480/440m^3/h	1,350/1,260m^3/h	970/880m^3/h
運転音※2	ファン強	43/44dB（A）	39/37dB（A）	45/46dB（A）	41/39dB（A）
	ファン弱	39/37dB（A）	31/28dB（A）	41/39dB（A）	33/30dB（A）
風量切替		リモコンスイッチ強・弱二段切替（二位置式ヒューミディスタット取付可）			
定格電源		AC100V			
定格消費電力	ファン強	105/125W	75/85W	200/245W	140/165W
	ファン弱	75/85W	50/50W	140/165W	90/95W
電圧許容範囲		± 10%以内			
運転時質量		37kg		60kg	
設置･保管条件	本体周囲温湿度	5 ～ 40℃（凍結しないこと） 80% RH 以下			
使用条件	吸込空気温度	5 ～ 40℃			
	給水水質	水道法水質基準に準ずる飲料水			
	給水圧力、温度	0.05 ～ 0.5MPa、5 ～ 30℃			
給水	給水方式	間欠給水方式（TSS 制御） ＊運転開始時は加湿モジュールの湿潤・洗い流しのためにファンを停止した状態で 10 分間連続給水を行い、その後間欠給水となりファンを運転させ加湿を行います。			
	給水量	間欠給水時（出荷時設定）：0.137ℓ /min ± 20% 連続給水時（最大） ：0.274ℓ /min ± 20%		間欠給水時（出荷時設定）：0.266ℓ /min ± 20% 連続給水時（最大） ：0.532ℓ /min ± 20%	

※ 1：製品出荷時には標準モード運転にセットしてあります。静音モード運転を行う場合は、本体内電装部のコネクタの差し替えが必要です。切替方法は P.23「3-5 静音モード運転への切替」を参照してください。

※ 2：無響室に設置した加湿器本体の真下 1.5m で計測した騒音レベル（A 特性）です。

5-2 ヒューミ付リモコン

機種・型式	ヒューミ付リモコン
型番	WM-HRM103
本体周囲温湿度	5 ～ 40℃（凍結しないこと） 30 ～ 90% RH 以下（結露しないこと） ＊当リモコンスイッチは室内専用です。室内に設置する場合においても、湯気、水しぶき、油などのかからない場所へ設置してください。
湿度設定範囲	35 ～ 70% RH ＊出荷時のヒューミディスタット設定湿度は 40% RH です。設定湿度はリモコンスイッチ操作により 5% 単位で変更が可能です。
湿度設定ヒステリシス	− 5% RH
リモコンケース色	ホワイト（近似色 マンセル 5Y9/0.5）
リモコンスイッチ初期設定	加湿器本体とリモコンスイッチの接続時にアドレスの設定が必要となります。 ＊リモコンスイッチのオートアドレス機能により当該リモコンに接続されている本体接続台数を認識、設定します（リモコンスイッチ操作と表示灯の点滅回数で接続台数が確認できます）。

ウエットマスター株式会社

本社営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 WM本社ビル TEL.03-3954-1101

●加湿器のメンテナンス、リニューアルに関するお問い合わせは、最寄りの各拠点へご連絡ください。

保守･サービス営業本部	〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15 カスタマーセンター	TEL.03-3954-1110
大 阪 支 店	〒540-0024 大阪市中央区南新町1-1-2 タイムスビル	TEL.06-4790-6606
名古屋営業所	〒464-0858 名古屋市千種区千種 1-15-1 ルミナスセンタービル	TEL.052-745-3277
仙 台 営 業 所	〒981-3133 仙台市泉区泉中央 3-27-7	TEL.022-772-8121
福 岡 営 業 所	〒812-0004 福岡市博多区榎田 2-1-10	TEL.092-471-0371

●業務用・産業用各種加湿器

●流量管理システム機器／エアロQシステム・カラムアイ

https://www.wetmaster.co.jp

5710-022800